

出題基準検討委員会報告書

I. 趣旨

あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師の第1回国家試験が、1993年に実施されてから第34回を迎えるに至った。この間、2002年6月に最初の出題基準が作成され、その後2度改訂したが、2017年に「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則」の改正が行われ、臨床能力向上を図る目的でカリキュラムが追加された。出題基準検討委員会では、それを受け2020年に第3回目の改訂を行った。

しかし、近年の医学・医療の進歩はすさまじく、あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師の臨床も大いにその影響を受け発展してきている。出題基準検討委員会はこうした時代の流れに対応すべく、2025年4月から審議を重ね、ここに第4回改訂版を取りまとめた。

II. 主な改正事項

- 「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則」における専門基礎分野の教育内容及び単位数（カリキュラム）は、あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師で、皆同じであることから、本出題基準の専門基礎分野においては「あん摩マッサージ指圧師」と「はり師及びきゅう師」の出題基準を統一した。
- 2020年改訂において、「あん摩マッサージ指圧師」、「はり師及びきゅう師」とともに「東洋医学臨床論」において、遭遇する疾患、症候をそれぞれ頻度別（よく遭遇する、遭遇することがある、知っておく）に列記したが、今回疾患名については割愛した。理由としては、①疾患名は臨床医学各論で記載されている、②あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師の臨床では症候から病態を捉えて治療する、などである。
- 2020年改訂版においては、「あん摩マッサージ指圧師」の東洋医学概論・経絡経穴概論における経穴は157穴であったが、①正経十二経穴の始終経穴、②解剖学的に重要な経穴、③臨床的に重要と考えられる経穴など、計24穴を追加、また重要度が低いと考えられる1穴を削除し、全部で180穴とした。さらに同様の理由で奇穴4穴を追加した。なお、これら184穴については「<専門分野>出題基準 あん摩マッサージ指圧師」の末尾に「あん摩マッサージ指圧師 経穴(180穴)・奇穴(4穴)一覧」としてまとめた。
- 項目の追加・削除
専門基礎分野及び専門分野において、2020年の出題基準改訂以後、新たに重要性が増した項目の追加等を行った。
- 記載方法
①全体の構成として項目立て（大項目・中項目・小項目）は前回と同様とした。
②一部で（ ）を用いたが、直前の言葉の内容の例示あるいは言い換えとした。
③索引については、本書の構成が、専門基礎科目<あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師共通>、専門科目<あん摩マッサージ指圧師>、専門科目<はり師及びきゅう師>になったことから一本化した。
- 略語集の作成
専門基礎分野、専門分野で用いられている欧文略語、日本語訳、英語表記をまとめて卷末に掲載した。

III. 適用

今回改正した出題基準は2027年（令和9年）2月の第35回国家試験から適用する。

IV. 課題と提案

「あん摩マッサージ指圧師」、「はり師及びきゅう師」国家試験では実技試験を行っていないことから、学校教育においては十二分な臨床実習を徹底する等、学校側で一定の実技レベルを担保できる体制の整備が望まれる。

2025年（令和7年）12月

出題基準検討委員会

出題基準検討委員会委員名簿

委員長	若山 育郎	関西医療大学
副委員長	宮川 俊平	筑波大学
	村上 哲二	東京吳竹医療専門学校
委員	相原 正宣	独立行政法人労働者健康安全機構 東京労災病院
	池田 弘明	中和医療専門学校
	内田 さえ	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
	太田 和幸	新宿医療専門学校
	佐藤 二美	東邦大学
	佐藤 康仁	国立保健医療科学院
	菅原 之人	東京衛生学園専門学校
	高橋 啓	東邦大学医療センター大橋病院
	福島 教照	東京医科大学
	前田 和彦	九州医療科学大学
	宮村 紘平	河北リハビリテーション病院
	森岡 健一	神戸市立盲学校
	渡邊 賢一	大阪府立大阪北視覚支援学校
	和辻 直	明治国際医療大学

(委員：五十音順)

国家試験出題基準の利用法

【はじめに】

あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師国家試験は、「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」第2条第1項の規定に基づき「あん摩マッサージ指圧師、はり師又はきゅう師となるのに必要な知識及び技能について」行われる。

その内容を具体的な項目によって示したのが、あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師国家試験出題基準である。

試験委員会は、国家試験の妥当な内容、範囲及び適切なレベル等を確保するため、この基準に拠って出題する。したがって、当該出題基準は特別支援学校・養成施設等の卒業前の教育で扱われる内容と概ね一致するものであるが、これらの教育のあり方を拘束するものではない。

【利用方法】

利用者は以下の各項に従う。なお、各項目は、あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師国家試験問題の出題範囲という観点から配列されているため、必ずしも学問的な分類体系と一致しない点がある。

1. 見出し（タイトル）・大・中・小項目

- (1) 見出し（タイトル）：教育内容及び対応する試験科目
- (2) 大項目：中項目のとりまとめ
- (3) 中項目：小項目のとりまとめ
- (4) 小項目：中項目に関する内容のうち、さらに出題範囲を限定する場合のキーワード

（ ）は直前の項目の代表的なものの例示、又はその項目の言い換えである。

- 2. 大・中・小項目で求める知識の内容は、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として、それぞれの任を果たすのに必要な基本的なものであり、専門的レベルの内容にわたるものではない。
- 3. あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師の出題基準は、各職種で要求されるレベルに応じた内容である。
- 4. 法律改正や制度の改正等では、原則として、一定期間出題をしないこととしているが、社会常識上出題に必要なものは、出題基準になくても説明を加えて出題することがある。
- 5. 「〈専門分野〉あん摩マッサージ指圧師」の末尾に、重要度が高いと考えられる経穴等をまとめた「あん摩マッサージ指圧師 経穴（180穴）・奇穴（4穴）一覧」を掲載した。
- 6. 卷末に欧文略語の一覧を掲載した。

教育内容と試験科目の対応表

●あん摩マッサージ指圧師

教 育 内 容		試 験 科 目
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学 生理学
	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進	病理学概論 臨床医学総論 臨床医学各論 リハビリテーション医学 衛生学・公衆衛生学
		関係法規
		医療概論（医学史を除く。）
		東洋医学概論・経絡経穴概論 あん摩マッサージ指圧理論
	基礎あん摩マッサージ指圧学	東洋医学臨床論
	臨床あん摩マッサージ指圧学	
専門分野	基礎はり学 基礎きゅう学	東洋医学概論 経絡経穴概論 はり理論 きゅう理論
	臨床はり学 臨床きゅう学	東洋医学臨床論

●はり師、きゅう師

教 育 内 容		試 験 科 目
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学 生理学
	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進	病理学概論 臨床医学総論 臨床医学各論 リハビリテーション医学 衛生学・公衆衛生学
		関係法規
		医療概論（医学史を除く。）
		東洋医学概論・経絡経穴概論 あん摩マッサージ指圧理論
	基礎はり学 基礎きゅう学	東洋医学臨床論
専門分野	基礎はり学 基礎きゅう学	東洋医学概論 経絡経穴概論 はり理論 きゅう理論
	臨床はり学 臨床きゅう学	東洋医学臨床論

●目 次●

序 文	I
出題基準検討委員会報告書	II
出題基準検討委員会委員名簿	III
国家試験出題基準の利用法	IV
教育内容と試験科目の対応表	V

＜専門基礎分野＞ あはき共通

出題基準 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師

●人体の構造と機能

I 解剖学	2
II 生理学	11

●疾病の成り立ち、予防及び回復の促進

I 病理学概論	16
II 臨床医学総論	21
III 臨床医学各論	27
IV リハビリテーション医学	37
V 衛生学・公衆衛生学	41

●保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念

I 関係法規	45
II 医療概論（医学史を除く。）	47

＜専門分野＞

出題基準 あん摩マッサージ指圧師

●基礎あん摩マッサージ指圧学

I 東洋医学概論・経絡経穴概論	50
II あん摩マッサージ指圧理論	54

●臨床あん摩マッサージ指圧学

I 東洋医学臨床論	56
◇あん摩マッサージ指圧師経穴（180 穴）・奇穴（4 穴）一覧	63

＜専門分野＞

出題基準 はり師、きゅう師

●基礎はり学、基礎きゅう学

I 東洋医学概論	66
II 経絡経穴概論	70
III はり理論	72
IV きゅう理論	75

●臨床はり学、臨床きゅう学

I 東洋医学臨床論	77
-----------	-------	----

欧文略語集

索 引

85

89

出題基準

〈専門基礎分野〉

あん摩マッサージ指圧師
はり師、きゅう師

人体の構造と機能

I 解剖学

大項目	中項目	小項目
1. 人体の構成	A. 細胞	a 細胞の構造 ①核 ②細胞膜 ③細胞小器官 ④細胞骨格 b 細胞分裂と遺伝子
	B. 組織	a 上皮組織 ①分類 ②細胞間結合装置 ③腺上皮 b 支持組織 ①結合組織（血液とリンパを含む） ②軟骨組織 ③骨組織 c 筋組織 ①骨格筋 ②平滑筋 ③心筋 d 神経組織 ①神経細胞（ニューロン） ②神経膠細胞 ③シナプス ④髓鞘
	C. 受精と発生	a 受精 b 卵割 c 着床 d 胚葉の形成と各胚葉から発生する器官 ①外胚葉 ②中胚葉 ③内胚葉 e 胎盤 ①絨毛と脱落膜 ②羊膜 ③臍帯
	D. 人体の区分と方向	a 人体の区分 b 人体の切断面と方向
2. 骨格系	A. 骨格系の概要	a 骨の形状 b 骨の連結 c 関節の種類 d 骨の発生と成長
	B. 脊柱	a 脊柱の構成 ①椎骨の基本形態 ②椎骨の連結 ③脊柱管 ④椎間孔 b 各部の椎骨

大項目	中項目	小項目
		①頸椎 ②胸椎 ③腰椎 ④仙骨 ⑤尾骨 c 脊柱の弯曲
	C. 胸郭	a 胸郭の構成 ①胸骨 ②肋骨 b 胸郭の全体像と運動 c 胸郭の体表解剖
	D. 上肢の骨格	a 上肢帯の骨 ①鎖骨 ②肩甲骨 b 自由上肢の骨 ①上腕骨 ②前腕の骨 ③手の骨 c 上肢の関節 ①胸鎖関節 ②肩鎖関節 ③肩関節 ④肘関節 ⑤橈骨・尺骨の連結 ⑥橈骨手根関節 ⑦手根骨同士の関節 ⑧手根骨と中手骨との関節 ⑨中手骨と基節骨との関節 ⑩指の関節 d 上肢の骨の体表解剖
	E. 下肢の骨格	a 下肢帯の骨 ①寛骨 ②骨盤 b 自由下肢の骨 ①大腿骨 ②膝蓋骨 ③下腿の骨 ④足の骨 c 下肢の関節 ①股関節 ②膝関節 ③脛骨・腓骨の連結 ④距腿関節 ⑤足根骨同士の関節 ⑥足根骨と中足骨との関節 ⑦中足骨と基節骨との関節 ⑧趾の関節 ⑨足弓 d 下肢の骨の体表解剖
	F. 頭蓋骨	a 頭蓋骨の構成

大項目	中項目	小項目
		①脳頭蓋 ②顔面頭蓋 b 脳頭蓋をつくる骨 ①前頭骨 ②頭頂骨 ③後頭骨 ④側頭骨 ⑤蝶形骨 ⑥篩骨 c 顔面頭蓋をつくる骨 ①鼻骨・涙骨・頬骨 ②上顎骨 ③口蓋骨・下鼻甲介・鋤骨 ④下顎骨 ⑤舌骨 d 顎関節
3. 筋系	A. 筋系の概要	a 筋の起始停止 b 筋の構造 c 筋の支配神経 d 筋の補助装置 e 筋の作用と運動
	B. 体幹の筋	a 胸部の筋 ①浅胸筋 ②深胸筋 ③横隔膜 b 腹部の筋 ①前腹筋 ②側腹筋 ③後腹筋 c 会陰の筋 d 背部の筋 ①浅背筋 ②深背筋 ③後頭下筋 e 体幹の運動 f 体幹の主要な筋の体表解剖
	C. 上肢の筋	a 上肢帯の筋 b 上腕の筋 ①上腕の屈筋群 ②上腕の伸筋群 c 前腕の筋 ①前腕の屈筋群 ②前腕の伸筋群 d 手の筋（手内筋） ①母指球筋 ②小指球筋 ③中手筋 e 上肢の運動 ①肩関節の運動 ②肘関節の運動

大項目	中項目	小項目
		③手の関節の運動 f 上肢の主要な筋の体表解剖
	D. 下肢の筋	a 下肢帯の筋 ①外窓骨筋 ②内窓骨筋 b 大腿の筋 ①大腿の伸筋群 ②大腿の屈筋群 ③大腿の内転筋群 c 下腿の筋 ①下腿の伸筋群 ②下腿の屈筋群 ③下腿の腓骨筋群 d 足の筋 ①足背筋 ②母趾球筋 ③小趾球筋 ④中足筋 e 下肢の運動 ①股関節の運動 ②膝関節の運動 ③足の関節の運動 f 下肢の主要な筋の体表解剖
	E. 頭頸部の筋	a 頭部の筋 ①表情筋 ②咀嚼筋 b 頸部の筋 ①広頸筋 ②胸鎖乳突筋 ③舌骨上筋群 ④舌骨下筋群 ⑤斜角筋 ⑥椎前筋 ⑦項部の筋 c 頸部の主要な筋の体表解剖
4. 循環器系	A. 血管系	a 体循環と肺循環 b 血管の構造 ①動脈 ②静脈 ③毛細血管
	B. 心臓	a 心臓の位置 b 心膜 c 心臓の壁 d 心房と心室 e 心臓の弁 f 刺激伝導系
	C. 動脈系	a 肺循環の動脈系 b 体循環の動脈系 ①上行大動脈とその枝 ②大動脈弓とその枝

大項目	中項目	小項目
		③胸大動脈とその枝 ④腹大動脈とその枝 ⑤頭頸部の動脈 ⑥上肢の動脈 ⑦骨盤の動脈 ⑧下肢の動脈
	D. 静脈系	a 肺循環の静脈系 b 体循環の静脈系 ①上大静脈に注ぐ枝 ②頭頸部の静脈 ③上肢の静脈 ④門脈系 ⑤下大静脈に注ぐ枝 ⑥骨盤の静脈 ⑦下肢の静脈
	E. 胎児循環	a 経路 b 生後循環への切り替わり
	F. リンパ系	a リンパ系の概要 b 全身のリンパ本幹 c 胸管 d リンパ系の器官 ①リンパ節 ②脾臓 ③胸腺 ④扁桃と集合リンパ小節
5. 呼吸器系	A. 鼻腔・副鼻腔	a 鼻腔 ①鼻道 ②鼻粘膜 b 副鼻腔
	B. 喉頭	a 喉頭の構造 b 声帯
	C. 気管と気管支	a 気管と気管支の構造
	D. 肺	a 肺の構造 b 肺区域 c 肺胞 d 胸膜と胸膜腔 e 縱隔
6. 消化器系	A. 消化管の基本構造	a 粘膜 b 筋層 c漿膜(外膜)
	B. 口腔	a 口蓋 ①硬口蓋と軟口蓋 ②口蓋扁桃 b 舌 ①舌乳頭 ②舌扁桃 ③舌の筋 ④舌の神経 c 齒

大項目	中項目	小項目
		①歯の構造 ②乳歯と永久歯 d唾液腺
	C. 咽頭	a咽頭の区分 b耳管 c扁桃
	D. 食道	a位置 b構造 c生理的狭窄
	E. 胃	a構造と区分 b胃間膜 c血管 d胃の組織構造
	F. 小腸	a十二指腸 ①構造と区分 ②大十二指腸乳頭 ③血管 b空腸と回腸 ①構造と区分 ②腸間膜 ③血管 c小腸の組織構造
	G. 大腸	a盲腸 ①構造 ②虫垂 ③血管 b結腸 ①構造と区分 ②間膜 ③外形的特徴 ④血管 c直腸と肛門 ①構造と区分 ②血管 d大腸の組織構造
	H. 肝臓	a位置 b構造 ①肉眼構造 ②組織構造 c血管
	I. 胆嚢	a位置と構造 b胆路
	J. 脾臓	a位置 b構造 ①肉眼構造 ②組織構造 c血管
	K. 腹膜	a腹膜と腹膜腔 b小網

大項目	中項目	小項目
		c 大網 d 腹膜内臓器と腹膜後臓器
7. 泌尿器系	A. 腎臓 B. 尿路	a 位置 b 構造 ①肉眼構造 ②組織構造 c 血管 a 尿管 ①構造 ②生理的狭窄 b 膀胱 ①位置 ②構造 c 尿道 ①男性の尿道 ②女性の尿道
8. 生殖器系	A. 男性生殖器 B. 女性生殖器	a 精巣 ①位置と構造 ②精細管と精子產生 ③精巣下降 b 精路 ①精巣上体 ②精管 ③付属腺 c 外生殖器 (外陰部) ①陰茎 ②陰囊 a 卵巣 ①位置と構造 ②卵胞 ③黄体・白体 b 卵管 c 子宮 ①位置と構造 ②子宮広間膜 ③子宮壁の構造 d 膀胱 e 外生殖器 (外陰部) ①小陰唇と陰核 ②膣前庭
9. 内分泌系	A. 下垂体 B. 松果体 C. 甲状腺 D. 副甲状腺 (上皮小体)	a 腺性下垂体 ①前葉 ②中間部 b 神経性下垂体 a 位置と構造 a 位置と構造 a 位置と構造

大項目	中項目	小項目
	E. 副腎 F. 脾臓 G. 性腺	a 副腎皮質 b 副腎髄質 a 脾島（ランゲルハンス島） a 精巣 b 卵巣
10. 神経系	A. 神経系の構成 B. 中枢神経系	a 灰白質と白質 b 神経興奮伝達の方向性 a 脊髄 ①脊髄の区分 ②脊髄の内部構造 b 延髄 c 橋 d 中脳 e 小脳 f 間脳 ①視床 ②視床下部 g 大脳 ①大脳皮質 ②大脳基底核 ③大脳の白質 h 脳室系 i 髄膜 ①硬膜 ②クモ膜 ③軟膜 j 脳脊髄液 k 脳の血管 l 伝導路 ①反射路 ②下行性伝導路 ③上行性伝導路 ④視覚伝導路 ⑤平衡及び聴覚伝導路 ⑥味覚伝導路 ⑦嗅覚伝導路
	C. 末梢神経系	a 脳神経 b 脊髄神経 ①脊髄神経の一般的構造 ②デルマトーム（皮膚分節） ③頸神経 ④腕神経叢 ⑤胸神経 ⑥腰神経 ⑦腰神経叢 ⑧仙骨神経 ⑨仙骨神経叢 c 自律神経系 ①交感神経系

大項目	中項目	小項目
11. 感覚器系	A. 視覚器	<p>②副交感神経系</p> <p>a 眼球 ①線維膜 ②血管膜 ③網膜 ④眼底 ⑤眼房と眼房水 ⑥水晶体と硝子体</p> <p>b 眼球の付属器 ①眼瞼（まぶた） ②涙器 ③外眼筋</p>
	B. 平衡聴覚器	<p>a 外耳 ①耳介 ②外耳道</p> <p>b 中耳 ①鼓膜 ②鼓室 ③耳管</p> <p>c 内耳 ①蝸牛 ②前庭 ③半規管</p> <p>d 音の伝達</p>
	C. 味覚器	a 味蕾
	D. 嗅覚器	a 嗅上皮
	E. 皮膚	<p>a 皮膚の構造 ①表皮 ②真皮 ③皮下組織</p> <p>b 皮膚の神経・血管 ①神経 ②血管</p> <p>c 毛</p> <p>d 爪</p> <p>e 皮膚腺 ①汗腺 ②脂腺 ③乳腺</p>

人体の構造と機能

I 生理学

大項目	中項目	小項目
1. 生理学の基礎	A. 生理機能の特徴	a 内部環境、ホメオスタシス b 細胞、組織、器官、器官系、個体
	B. 細胞の構造と働き	a 細胞膜 b 細胞質と細胞小器官 c 核、DNA、RNA、タンパク質合成
	C. 物質代謝	a 同化と異化 b 解糖系と内呼吸
	D. 体液の組成と働き	a 体液の区分 b pH c 浸透圧 d 体液量
	E. 物質移動	a 拡散 b 浸透（半透膜） c 能動輸送 d 食作用 e ろ過
2. 血液	A. 血液の組成とその働き	a 赤血球 b 白血球 c 血小板 d 血漿
	B. 止血機構	a 血小板血栓 b 血液凝固 c 線維素溶解（線溶） d 凝固阻止物質
	C. 血液型	a ABO式血液型 b Rh式血液型
3. 循環	A. 心臓の構造と働き	a 心臓の構造 b 心筋の特性 c 刺激伝導系 d 心機能の調節 e 心電図
	B. 血管系の構造と働き	a 体循環と肺循環 b 動脈と静脈、動脈血と静脈血 c 血管の構造と働き d 脈拍 e 血流 f 毛細血管の循環 g 静脈還流
	C. 血圧	a 血圧の測定 b 最高血圧、最低血圧、脈圧 c 血圧に影響する因子
	D. 循環調節	a 循環中枢と反射性調節 b 高位中枢からの影響 c 特殊な部位の循環
	E. リンパ系	a リンパ

大項目	中項目	小項目
		b リンパ系の機能
4. 呼吸	A. 呼吸器系の構造と働き B. 換気とガス交換 C. 呼吸運動と呼吸調節	a 外呼吸（肺呼吸）と内呼吸（組織呼吸） b 気道、肺胞、胸郭の構造と働き a 肺機能 b ガス交換とガスの運搬 a 吸息 b 呼息 c 胸腔内圧 d 呼吸中枢と反射性調節
5. 消化と吸収	A. 消化器系の構造と働き B. 消化と吸収 C. 肝臓	a 消化器系の構造と働き b 各栄養素の消化と吸収 a 口腔内の消化（咀嚼、嚥下） b 胃内の消化及び調節 c 小腸内の消化と吸収及び調節 d 大腸内の消化と吸収及び調節 e 排便の仕組み a 物質代謝 b 胆汁の生成 c 解毒作用 d 血液凝固に関する働き e 血液の貯蔵
6. 代謝	A. 栄養素とエネルギー代謝 B. 三大栄養素 C. ビタミン、無機質、水	a 栄養素 b エネルギー必要量と栄養所要量 a 糖質 b 脂質 c タンパク質 a ビタミン b 無機質 c 水
7. 体温	A. 体温 B. 体熱の産生と放熱 C. 体温調節	a 体温の部位差 b 生理的変動 a 热產生 b 热放散 a 温度受容器と体温調節中枢 b 体温調節反応
8. 排泄	A. 腎臓の働き B. 腎臓による体液調節 C. 蓄尿と排尿	a 尿生成 b 腎循環 c 糸球体ろ過 d 尿細管の再吸収・分泌 e 尿の組成 a 体液の pH 調節 b 細胞外液浸透圧の調節 c 細胞外液量の調節 a 蓄尿 b 排尿
9. 内分泌	A. ホルモンの特徴	a 一般的特徴 b 化学的性質 c 作用機序

大項目	中項目	小項目
	B. ホルモンの種類とその働き	d ホルモン分泌の調節 a 視床下部のホルモン b 下垂体のホルモン c 甲状腺のホルモン d 副甲状腺（上皮小体）のホルモン e 脾臓のホルモン f 副腎皮質のホルモン g 副腎髄質のホルモン h 精巣のホルモン i 卵巣のホルモン j その他のホルモン（消化管ホルモン、腎臓のホルモン、松果体のホルモン、心臓ホルモン）
10. 生殖と成長	A. 男性生殖器	a 精子形成 b 性反射
	B. 女性生殖器	a 卵子形成 b 性周期（卵巣周期、月経周期）
	C. 妊娠と出産	a 受精、着床、妊娠 b 胎児の発育 c 分娩 d 乳汁分泌
	D. 成長と老化	a 身長・体重の経時的变化 b 身体各部位の成長、各器官の成長 c 細胞の寿命 d 生理的老化の特徴 e 身体機能の加齢変化
11. 神経	A. ニューロンの構造とその働き	a ニューロン b 支持細胞
	B. 神経の興奮伝導	a 静止電位 b 活動電位 c 興奮の伝導
	C. 興奮の伝達	a シナプスの構造と働き b シナプス伝達 c 神経伝達物質 d 受容体
	D. 神経系の分類	a 中枢神経系 b 末梢神経系
	E. 反射	a 反射弓 b 反射の種類と特徴
	F. 脊髄	a ベル・マジャンディーの法則 b 脊髄反射 c 脊髄内の伝導路
	G. 脳幹	a 呼吸中枢 b 循環中枢 c 消化に関する中枢 d 排尿中枢 e 姿勢反射中枢 f 対光反射中枢
	H. 小脳	a 運動調節

大項目	中項目	小項目
		b 姿勢制御
	I. 視床	a 感覚 b 意識 c 運動
	J. 視床下部	a 自律機能の統合 b 本能行動の中枢 c 情動行動の中枢
	K. 大脳	a 大脳基底核 b 大脳辺縁系 c 新皮質 d 学習・記憶 e 覚醒・睡眠 f 脳波
	L. 脳脊髄液	a 生成と循環 b 働き
	M. 体性神経系	a 脳神経 b 脊髄神経 c 皮膚分節と筋分節
	N. 自律神経系	a 交感神経系 b 副交感神経系 c 自律神経調節の特徴 d 内臓求心性神経 e 神経伝達物質と受容体 f 自律神経系の中枢
	O. 自律神経の関与する反射	a 内臓-内臓反射 b 体性-内臓反射 c 内臓-体性反射
12. 筋肉	A. 骨格筋の構造と働き	a 骨格筋の種類 b 骨格筋の作用 c 筋線維と筋原線維 d 筋の微細構造
	B. 筋収縮の仕組み	a 興奮収縮連関 b 等尺性収縮と等張性収縮、求心性収縮と遠心性収縮 c 单収縮と強縮 d 筋の疲労
	C. 筋のエネルギー供給	a 筋収縮のエネルギー代謝 b 筋の熱発生
	D. 心筋と平滑筋	a 心筋 b 平滑筋
13. 身体の運動	A. 骨格筋の神経支配	a 運動単位 b α 、 γ 運動ニューロン c 神経筋接合部 d 筋紡錘と腱受容器
	B. 運動の調節	a 脊髄における調節 b 脳幹における調節 c 小脳による調節 d 大脳基底核による調節 e 大脳皮質による調節

大項目	中項目	小項目
		f 錐体路系と錐体外路系
	C. 発声と言語	a 発声の仕組み b 言語中枢
14. 感覚	A. 感覚の一般的性質	a 感覚とその分類 b 感覚の一般的性質
	B. 体性感覚	a 皮膚感覚 b 深部感覚 c 体性感覚の伝導路
	C. 内臓感覚	a 腸器感覚 b 内臓痛覚
	D. 痛覚	a 痛みの分類 b 内因性発痛物質 c 痛みによる反応 d 痛みの抑制系
	E. 味覚と嗅覚	a 味覚の性質 b 味覚の受容器と伝導路 c 嗅覚の性質 d 嗅覚の受容器と伝導路
	F. 平衡感覚	a 平衡感覚の性質 b 前庭器官と伝導路
	G. 聴覚	a 聴覚の性質 b 聴覚の受容器と伝導路
	H. 視覚	a 視覚の性質 b 視覚の受容器と伝導路
15. 生体の防御機構	A. 防御機構に働く組織と因子	a 抗原 b 自己、非自己 c 生体表面のバリア d 白血球の働き e 免疫系に働く液性因子 f リンパ系器官
	B. 免疫反応の分類	a 自然免疫と獲得免疫 b 液性免疫と細胞性免疫
	C. 炎症とアレルギー	a 炎症 b アレルギー
16. ホメオスタシスと生体リズム	A. ホメオスタシス	a フィードバック調節系 b 血圧と血液量の調節 c 体液の電解質調節 d 血糖調節 e 体温調節
	B. 生体リズム	a 概日リズム b 自律神経・内分泌機能の日内リズム c 日内リズムの変更と正常化 d その他のリズム

疾病の成り立ち、予防及び回復の促進

I 病理学概論

大項目	中項目	小項目
1. 病理学の基礎	A. 病理学の概念	a 定義 b 医療における病理学の役割
	B. 疾病（疾患）の概念	a 先天性疾患（遺伝性、非遺伝性）と後天性疾患 b 局所性疾患と全身性疾患 c 器質的疾患と機能的疾患 d 急性疾患と慢性疾患 e 原発性、続発性、合併症 f 伝染性疾患（感染症） g 小児疾患と老人性疾患（加齢） h 特発性疾患
	C. 疾病の症状（症候）と経過	a 種々の症状（自覚症状と他覚症状、直接症状と間接症状） b 疾病の経過（潜伏期、前駆期、侵襲期（進行期）、極期、消退期、回復期）
	D. 予後及び転帰	a 疾病の予後 b 疾病の転帰 c 個体の死（死の判定、脳死）
2. 病因	A. 病因の一般	a 定義 b 分類 c 遺伝と環境 d 主因と副因
	B. 内因	a 一般素因（年齢、性、人種、臓器） b 個人的素因 c 遺伝子異常 d 染色体異常 e 内分泌異常（下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎皮質、副腎髄質、胰島、性腺） f 免疫異常、アレルギー g 心因性疾患（神経症、心身症、自律神経失調症）
	C. 外因	a 栄養障害（蓄積症、飢餓、主なビタミン欠乏症、ミネラル、水、酸素の不足） b 物理的因素（機械的因素、温熱的因素、電気、気圧、光線、放射線） c 化学的因素（環境汚染物質、公害病、医原病、薬害、タバコ、アルコール、薬物） d 生物学的因素（病原微生物）
	D. 感染症	a 病原微生物の種類（ウイルス、細菌、真菌、原虫、プリオン） b 感染経路 c 菌交代現象 d 日和見感染症 e 薬剤耐性菌 f 新興感染症と再興感染症
	E. 代謝異常	a 糖代謝異常（糖尿病、糖原病）

大項目	中項目	小項目
		b 脂質代謝異常（脂質異常症、脂肪肝、動脈硬化症） c タンパク質代謝異常（アミロイドーシス、尿毒症、アンモニア血症） d 核酸代謝異常（痛風） e 色素代謝異常（黄疸） f 無機物代謝異常（ヘモジデローシス、ヘモクロマトーシス、ウィルソン病）
	F. 発生異常	a 原因（常染色体異常、性染色体異常、感染症、放射線、化学物質、薬剤） b 発生時期（臨界期） c 種類
	G. 老化	a 生理的老化と病的老化 b 老化の4原則 c 個体老化と細胞老化 d 細胞老化の機序（DNA変化、タンパク質変化、脂質／糖質の変化、アミロイド沈着）
	H. 小児疾患	a 特徴
3. 細胞傷害と修復	A. 細胞傷害の一般	a 細胞傷害の原因
	B. 変性	a 定義 b 分類
	C. 細胞死	a 壊死の定義 b 壊死の原因（化学物質、ウイルスを含む） c 壊死の形態（凝固壊死、融解壊死、乾酪壊死） d 転帰 e アポトーシス
	D. 再生	a 定義（完全再生、不完全再生、生理的再生、病的再生） b 再生の法則 c 組織による再生力の違い
	E. 創傷治癒	a 第一次治癒、第二次治癒 b 肉芽組織、マトリックス c 創傷治癒の経過 d 創傷治癒の合併症（瘢痕・収縮） e 過剰線維化（硬化症・硬変：肺、肝、腎） f 創傷治癒を妨げる因子
	F. 異物処理	a 排除 b 器質化 c 被包
	G. 肥大	a 定義 b 原因的分類（機能亢進性肥大、労働性肥大、代償性肥大、内分泌性肥大、偽肥大）
	H. 過形成	a 定義 b 生理的過形成と病的過形成
	I. 萎縮	a 定義 b 全身性萎縮と局所性萎縮

大項目	中項目	小項目
	J. 化生	a 定義 b 原因 c 種類 (扁平上皮化生、腸上皮化生、骨化生、骨髄化生)
4. 循環障害	A. 構造と機能	a 心臓 b 大循環 c 小循環 d 門脈循環 e 血管の二重支配 f リンパ液循環
	B. 充血	a 定義 b 原因
	C. うっ血	a 定義 b 原因 c 全身性うっ血 (心不全) d 局所性うっ血
	D. 浮腫 (水腫)・脱水症	a 浮腫の定義 b 種類 (全身性浮腫と局所性浮腫、腔水症、水腫と浮腫) c 発生機序 (漏出液と滲出液) d 原因的分類 (うっ血性浮腫、心性浮腫、腎性浮腫、肝性浮腫、炎症性浮腫、リンパ環流障害性浮腫) e 徴候 f 脱水症の定義と種類
	E. 出血	a 定義 b 原因 c 出血性素因 (出血傾向) [血管側と血液側、代表的疾患] d 転帰
	F. 血栓症	a 正常の止血機構 b 血栓症の定義 c 血栓の種類 d 血栓形成の条件 e DIC f 転帰
	G. 塞栓症	a 定義 b 種類 c 栓子の種類 d 発生機序
	H. 虚血・梗塞	a 定義と概念 (終末動脈) b 原因 c 分類・好発臓器 d 症状 e 転帰
	I. 側副循環	a 定義 b 主な側副循環と症状
	J. ショック	a 概念、定義 b 原因と分類

大項目	中項目	小項目
		c ショック臓器と症状 d 多臓器不全
5. 炎症	A. 炎症の一般	a 定義 b 炎症の原因因子
	B. 炎症のメカニズム	a 炎症にかかわる細胞 b 炎症のメディエーター（化学伝達物質） c 細胞接着分子 d 宿主要因
	C. 急性炎症	a 急性炎症の五大徴候 b 急性炎症の時間的経過（微小循環障害、細胞反応、転帰） c 急性炎症の形態（漿液性炎、線維素性炎、化膿性炎、膿瘍、蜂巣炎（蜂窩織炎）、壊疽性炎、出血性炎） d 急性炎症の転帰（治癒、膿瘍、器質化、慢性化）
	D. 慢性炎症	a 慢性炎症の経過 b 慢性炎症の形態（増殖性炎、特異性炎（肉芽腫性炎））
	E. 炎症の終焉と創傷治癒	a 組織の修復
	F. 炎症の全身への影響	a 急性炎症による全身反応 b 全身性炎症反応症候群
6. 免疫とその異常	A. 免疫の基礎	a 自然免疫と獲得免疫 b 抗原と抗体 c 免疫担当細胞 d 液性免疫（抗体の種類と役割、抗体産生機序） e 細胞性免疫（関係細胞とその役割） f 免疫反応に関わるサイトカイン g 免疫にかかわる臓器 h 能動免疫と受動免疫（ワクチンと血清療法）
	B. アレルギー反応（免疫病）	a 定義 b I型アレルギーと代表的疾患 c II型アレルギー [抗レセプター抗体反応（V型）を含む] と代表的疾患 d III型アレルギーと代表的疾患 e IV型アレルギーと代表的疾患
	C. 移植に関連する免疫反応	a 定義 b 種類と例（自家移植、同系移植、同種移植、異種移植、骨髄移植の特殊性） c 拒絶反応（移植免疫、HVG、GVH）
	D. 自己免疫疾患	a 概念と発生機序（自己免疫寛容の破綻） b 主な自己免疫疾患
	E. 免疫不全症	a 概念と発生機序 b 主な免疫不全症 ①先天性免疫不全症 ②後天性免疫不全症（AIDSを含む）

大項目	中項目	小項目
7. 腫瘍	A. 腫瘍の一般	a 定義 b 腫瘍細胞の構成成分（実質と間質） c 良性腫瘍と悪性腫瘍 d 増殖様式（膨張性発育、浸潤性発育） e 転移（リンパ行性転移、血行性転移、播種性転移、接触転移） f 増殖・進展・病期（早期がん、進行がん、末期がん、前がん病変、上皮内癌、不顕性がん、TNM分類）
	B. 発がん理論	a 発がん機序（発がんの多段階説） b がん遺伝子とがん抑制遺伝子 c 内因（遺伝的素因、ホルモン、免疫） d 外因（化学的発がん物質、物理的発がん因子、腫瘍ウイルス、慢性炎症）
	C. 腫瘍の分類	a 良性腫瘍 b 悪性腫瘍 c 上皮性腫瘍 d 非上皮性腫瘍 e 混合腫瘍 f 奇形腫
	D. がん患者をめぐって	a 宿主に及ぼす影響（局所的・全身的影響、腫瘍免疫） b 腫瘍マーカー c 予後因子（5年、10年生存率） d がんの疫学

疾病の成り立ち、予防及び回復の促進

II 臨床医学総論

大項目	中項目	小項目
1. 症候	A. 全身の症候	a 全身倦怠感 b 発熱 c やせ・肥満 d 成長異常 e ショック f めまい g けいれん h 口渴 i 浮腫 j チアノーゼ
	B. 皮膚・外表	a 発疹 b 搓痒 c 黄疸 d 発汗異常 e 鼠径部膨隆
	C. 感覚器	a 嗅覚障害 b 味覚障害 c 視力低下 d 視野欠損 e 眼精疲労 f 眼瞼下垂 g 複視 h 眼振 i 耳鳴り j 難聴
	D. 呼吸器、心臓、血管	a 咳・痰 b 喘息 c 嘎声 d 胸痛 e 呼吸困難 f 胸水 g 脈拍異常 h 血圧異常
	E. 消化器	a 噫下困難 b 胸やけ c 腹痛 d 悪心・嘔吐 e 吐血 f 下血 g 便秘 h 下痢 i 腹部膨隆 j 腹水
	F. 血液、造血器、免疫	a 貧血 b 出血傾向 c 易感染性

大項目	中項目	小項目
	G. 泌尿・生殖器	a 尿量異常 b 排尿障害（頻尿、排尿痛、尿失禁） c 血尿 d 月経異常 e 性器出血
	H. 心理・精神機能	a 睡眠障害 b 認知機能障害 c うつ状態 d 躁状態 e 幻覚妄想 f 不安障害
	I. 神経、運動器	a 意識障害 b 片麻痺 c 失語・失認・失行 d 見当識障害 e 記憶障害 f 感覚障害 g 歩行障害 h 失神 i 頭痛 j 頸肩腕痛 k 肩こり l 運動麻痺 m 不随意運動 n 腰下肢痛 o 関節痛（肩関節、膝関節）・関節腫脹
2. 診察法	A. 概要	a 診察の意義 b 一般的心得 c 関連用語 <ul style="list-style-type: none"> ①予後 ②転帰 ③自覚症状 ④他覚所見 d 診察法の種類 <ul style="list-style-type: none"> ①医療面接 ②視診 ③触診 ④打診 ⑤身体計測 ⑥神経系の診察 e 診察の順序 <ul style="list-style-type: none"> ①医療面接 ②身体診察 f 診察の記録
	B. 医療面接	a 意義と方法 b カルテ記載項目 c POSとPOMR
	C. 視診	a 意義と方法 b 全身の観察

大項目	中項目	小項目
		①顔貌・顔色 ②精神状態 ③言語 ④体格・体型 ⑤栄養 ⑥姿勢 ⑦歩行 ⑧皮膚 ⑨爪 ⑩リンパ節 c 局所の観察 ①頭頸部 ②顔面部 ③眼・鼻・耳 ④口腔 ⑤胸部 ⑥腹部 ⑦腰背部 ⑧四肢
D. 打診		a 意義と方法 b 種類 ①清音 ②濁音 ③鼓音 c 胸部 d 腹部
E. 聴診		a 意義と方法 b 種類 ①呼吸音 ②心音・心雜音 ③腸雜音 ④血管雜音
F. 觸診		a 意義と方法 b 胸部 c 腹部 d 局所の観察 ①皮膚・皮下組織 ②筋肉 ③骨・関節 ④リンパ節
G. 身体計測		a 意義と方法 b 全身の観察 ①身長（高・低身長） ②体重 ③胸囲 ④腹囲 ⑤四肢長及び四肢周径
H. バイタルサイン (生命徵候)		a 脈拍 b 呼吸

大項目	中項目	小項目
		c 体温 d 血圧 e 意識レベル
	I. 神経系の検査	a 意義と方法 b 感覚検査 ①表在感覚 ②深部感覚 ③複合感覚 c 反射検査 ①表在反射 ②深部反射 ③病的反射 ④自律神経反射 d 脳神経機能検査 e 自律神経機能検査 f 精神状態 g 高次脳機能検査 h 不随意運動 i 運動麻痺 j 運動失調 k 髄膜刺激症状 l 筋肉の異常（筋萎縮、筋トーヌスの異常） m 起立と歩行
	J. 運動機能検査	a 徒手による整形外科学的検査法 ①頸部・胸部・腰仙部 ②肩・上腕・肘・前腕・手関節・手部 ③股関節・大腿・膝関節・下腿・足関節・足部
3. 臨床検査法	A. 検体検査	a 尿検査 ①尿量 ②尿比重 ③尿色 ④尿タンパク ⑤尿糖 ⑥尿ケトン体 ⑦尿ウロビリン体 ⑧尿ビリルビン ⑨尿沈渣 b 粪便検査 ①便潜血反応 ②寄生虫 c 血液検査 ①赤血球 ②ヘマトクリット ③血色素 ④白血球 ⑤血小板 ⑥赤血球沈降速度 d 生化学検査

大項目	中項目	小項目
		<p>〔肝機能検査〕</p> <p>①総タンパク ②アルブミン ③AST、ALT ④γ-GT ⑤総ビリルビン</p> <p>〔膵機能検査〕</p> <p>①アミラーゼ ②膵リパーゼ</p> <p>〔腎機能検査〕</p> <p>①BUN ②クレアチニン ③尿酸</p> <p>〔鉄代謝関連検査〕</p> <p>①血清鉄 ②フェリチン</p> <p>〔糖代謝関連検査〕</p> <p>①空腹時血糖 ②HbA1c ③ケトン体</p> <p>〔脂質検査〕</p> <p>①総コレステロール ②LDLコレステロール ③HDLコレステロール ④中性脂肪</p> <p>〔炎症〕</p> <p>①CRP</p> <p>e 免疫学的検査</p> <p>①RF ②抗核抗体 ③抗 CCP 抗体</p> <p>f 感染症検査</p> <p>①溶連菌 ②HIV ③肝炎ウイルス (A、B、C、D、E) ④ヘルコバクター・ピロリ ⑤クラミジア ⑥梅毒トレポネーマ ⑦結核菌・非結核性抗酸菌</p> <p>g 内分泌検査</p> <p>①下垂体ホルモン ②甲状腺ホルモン ③副甲状腺 (上皮小体) ホルモン ④心臓ホルモン ⑤腎臓・副腎ホルモン ⑥性ホルモン</p> <p>h 腫瘍マーカー検査</p> <p>①AFP ②CA19-9 ③CA125</p>

大項目	中項目	小項目
		④ CEA ⑤ PSA ⑥ SCC ⑦ CA15-3
	B. 生理学的検査	生理機能・画像検査 a 心電図 b 筋電図（末梢神経伝導速度検査を含む） c 脳波 d 呼吸機能検査 e 画像診断 ①超音波 ②エックス線 ③内視鏡 ④CT ⑤MRI ⑥PET f サーモグラフィ
4. 治療法	A. 概要	a 意義と分類 b 種類 ①原因療法 ②対症療法 ③特殊療法 ④保存療法
	B. 食事療法	a 概要
	C. 薬物療法	a 概要
	D. リハビリテーション	a 理学療法 b 作業療法 c 言語聴覚療法 d 物理療法
	E. 救命処置	a 一次救命処置（AED、止血法、気道異物除去法、搬送法を含む） b 二次救命処置
	F. その他の療法	a 手術療法と適応疾患 b 全身麻酔と局所麻酔 c 神経ブロック d 放射線療法 e 集中治療 f 透析療法 g 人工ペースメーカー h 輸血療法 i 体位ドレナージ j ネブライザー療法 k 緩和ケア l 臓器移植 m 減菌・消毒
5. 精神療法	A. 患者の心理	a 概要
	B. カウンセリング	a 概要
	C. 心理療法	a 概要

疾病の成り立ち、予防及び回復の促進

III 臨床医学各論

大項目	中項目	小項目
1. 感染症	A. 感染と病態 B. 細菌感染症 C. ウィルス感染症 D. その他	a 感染経路 b 日和見感染 c 菌交代現象 d 医療関連感染（院内感染） a 黄色ブドウ球菌感染症（MRSAを含む） b 連鎖球菌感染症（猩紅熱を含む） c 肺炎球菌感染症 d 細菌性食中毒 ①サルモネラ症 ②腸炎ビブリオ感染症 ③腸管出血性大腸菌感染症 ④細菌性赤痢 ⑤カンピロバクター感染症 ⑥ボツリヌス症 e 緑膿菌感染症 f レジオネラ症 g 結核 h 非結核性抗酸菌症 a インフルエンザ b COVID-19 c 流行性耳下腺炎 d 麻疹 e 風疹 f 急性灰白髄炎（ポリオ） g コクサッキーウィルス感染症 h アデノウィルス感染症 i 単純疱疹 j 水痘 k 带状疱疹 l ヒトT細胞白血病ウィルス感染症 m 後天性免疫不全症候群（AIDS） n ウィルス肝炎 o ヒトパピローマウィルス感染症 p ノロウィルス感染症 a 梅毒 b クラミジア感染症 ①性器クラミジア感染症 c マイコプラズマ感染症 d 真菌感染症 ①カンジダ症 ②ニューモシスチス肺炎 e アニサキス症
2. 神経・筋疾患	A. 脳血管疾患と頭部外傷	a 脳出血 b くも膜下出血 c 脳梗塞 ①脳血栓

大項目	中項目	小項目
		②脳塞栓 ③ラクナ梗塞 d 一過性脳虚血発作 (TIA) e 頭部外傷 ①急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫 ②慢性硬膜下血腫
	B. 感染性疾患	a 隹膜炎 ①細菌性鼈膜炎 ②ウイルス性鼈膜炎 ③真菌性鼈膜炎 b 脳炎 c プリオン病
	C. 脳・脊髄腫瘍	a 脳腫瘍 ①神経膠腫 ②鼈膜腫 ③下垂体腺腫 ④神経鞘腫 ⑤転移性脳腫瘍 b 脊髄腫瘍
	D. 変性疾患	a パーキンソン病 b パーキンソン症候群 (パーキンソニズム) c 脊髄小脳変性症 d 多系統萎縮症
	E. 認知症	a アルツハイマー病 b レビー小体型認知症 c 脳血管性認知症 d 前頭側頭型認知症 e 軽度認知障害 (MCI)
	F. 神経筋接合部疾患・筋疾患	a 重症筋無力症 b 進行性筋ジストロフィー ①デュシェンヌ型筋ジストロフィー ②ベッカー型筋ジストロフィー ③筋強直性ジストロフィー c 多発性筋炎
	G. 運動ニューロン疾患	a 筋萎縮性側索硬化症 (ALS)
	H. 脱髓性疾患	a 多発性硬化症
	I. 末梢神経疾患	a 多発ニューロパチー (ギラン・バレー症候群を含む) b 末梢性顔面神経麻痺 (ベル麻痺、ラムゼイハント症候群) c 眼瞼けいれん、片側顔面けいれん d 腕神経叢麻痺 (引き抜き損傷、肩甲上神経麻痺、腋窩神経麻痺) e 末梢神経麻痺 (絞扼性神経障害を含む) ①橈骨神経麻痺 (後骨間神経麻痺を含む)

大項目	中項目	小項目
		②正中神経麻痺（円回内筋症候群、前骨間神経麻痺、手根管症候群を含む） ③尺骨神経麻痺（肘部管症候群、ギヨン管症候群を含む） ④感覺異常性大腿神経痛 ⑤梨状筋症候群 ⑥総腓骨神経麻痺 ⑦浅腓骨神経麻痺 ⑧深腓骨神経麻痺 ⑨脛骨神経麻痺（足根管症候群を含む）
	J. 神経痛	a 三叉神経痛 b 肋間神経痛 c 坐骨神経痛 d 後頭神経痛
	K. 慢性頭痛	a 緊張型頭痛 b 片頭痛 c 群発頭痛 d 薬物乱用頭痛
	L. てんかん	a 原因による分類 ①症候性てんかん ②特発性てんかん b 発作型による分類 ①焦点発作（単純部分発作、複雑部分発作） ②全般発作
3. 呼吸器・胸壁疾患	A. 感染性肺疾患	a 上気道炎（かぜ症候群を含む） b 急性気管支炎 c 肺炎 ①市中肺炎 ②医療介護関連肺炎、院内肺炎 d 肺結核 e 肺非結核性抗酸菌症
	B. 気道閉塞性疾患	a 慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉（肺気腫、慢性気管支炎）
	C. アレルギー性疾患	a 気管支喘息、咳喘息
	D. 全身疾患に伴う肺病変	a 膠原病肺
	E. 間質性肺疾患	a 特発性肺線維症 b 薬剤性肺障害 c 硅肺、アスベスト肺
	F. 腫瘍性疾患	a 肺癌 ①腺癌 ②扁平上皮癌 ③小細胞癌 ④大細胞癌 ⑤転移性肺癌 b 胸膜中皮腫 c 癌性胸膜炎

大項目	中項目	小項目
	G. その他	a 気管支拡張症 b 肺塞栓症 c 肺水腫 d 気胸、血胸 e 過換気症候群 f 睡眠時無呼吸症候群
4. 循環器疾患	A. 不整脈	a 頻脈性不整脈 ①心房細動 ②心房粗動 ③発作性上室性頻拍 ④心室頻拍 ⑤心室細動（ブルガダ症候群を含む） b 期外収縮 ①上室性（心房性）期外収縮 ②心室性期外収縮 c 徐脈性不整脈 ①房室ブロック ②洞不全症候群 d QT 延長症候群
	B. 心不全	a 左心不全 b 右心不全
	C. 先天性心疾患	a 心房中隔欠損症 b 心室中隔欠損症 c ファロー四徴症 d 動脈管開存症
	D. 心臓弁膜症	a 僧帽弁狭窄症 b 僧帽弁閉鎖不全症 c 大動脈弁狭窄症 d 大動脈弁閉鎖不全症
	E. 心筋・心膜疾患	a 特発性心筋症 ①肥大型心筋症 ②拡張型心筋症 b 心筋炎 c 心膜炎 d 感染性心内膜炎 e 心タンポナーデ
	F. 虚血性心疾患	a 急性冠症候群 ①不安定狭心症 ②急性心筋梗塞 ③心臓突然死 b 慢性冠動脈疾患 ①労作性狭心症 ②冠攣縮性狭心症
	G. 血管疾患	a 大動脈疾患 ①胸部・腹部・胸腹部大動脈瘤 ②大動脈解離（マルファン症候群を含む） ③高安動脈炎 b 冠動脈瘤（川崎病後遺症）

大項目	中項目	小項目
		c 末梢動脈疾患 ①閉塞性動脈硬化症（下肢閉塞性動脈疾患） ②レイノ一症候群 ③バージャー病（閉塞性血栓血管炎） ④急性動脈閉塞症 d 静脈疾患 ①深部静脈血栓症（DVT） ②血栓性靜脈炎 ③下肢静脈瘤 e リンパ管疾患 ①リンパ浮腫
	H. 血圧異常	a 本態性高血圧 b 二次性高血圧 ①腎実質性高血圧 ②腎血管性高血圧 ③内分泌性高血圧 c 低血圧症（起立性低血圧を含む） d ショック
5. 消化器疾患	A. 口腔・歯科疾患	a アフタ性口内炎 b 歯周病 c う歯 d 顎関節症
	B. 食道疾患	a 胃食道逆流症 b 食道癌 c 食道静脈瘤 d マロリー・ワイス症候群
	C. 胃疾患	a 胃炎 ①急性胃粘膜病変 ②慢性胃炎 b 胃・十二指腸潰瘍 c 胃癌 d 胃ポリープ e 胃切除後症候群（ダンピング症候群） f 機能性ディスペプシア（FD） g 胃アニサキス症
	D. 小腸・大腸疾患	a 感染性腸炎 b 過敏性腸症候群（IBS） c 潰瘍性大腸炎 d クローン病 e 虫垂炎 f 腸閉塞（イレウス） g 大腸癌 h 大腸ポリープ i 大腸憩室 j 便秘症 k 痔核、痔瘻、裂肛 l 鼠径ヘルニア
	E. 肝臓疾患	a 肝炎

大項目	中項目	小項目
		①急性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎 ②ウイルス性肝炎（A型、B型、C型、D型、E型） ③自己免疫性肝炎 b 肝硬変、門脈圧亢進症 c 原発性肝癌（肝細胞癌、胆管細胞癌） d 転移性肝癌 e 肝血管腫、肝囊胞 f アルコール性肝疾患（ALD） g 非アルコール性脂肪性肝疾患 h 薬剤性肝障害 i 肝性脳症
	F. 胆道疾患	a 胆石症 b 胆囊炎 c 胆管炎 d 胆道癌（胆囊癌、胆管癌、乳頭部癌） e 胆囊ポリープ
	G. 膵臓疾患	a 急性胰炎 b 慢性胰炎、胰石症 c 胰癌
6. 腎泌尿生殖器疾患	A. 糖尿病	a 急性糖尿病 b 慢性糖尿病（IgA腎症を含む） c 糖尿病性腎症 d ネフローゼ症候群（一次性、二次性）
	B. 腎不全	a 急性腎不全、急性腎障害 b 慢性腎不全、慢性腎臓病（CKD）
	C. 感染症	a 腎盂腎炎 b 膀胱炎 c 尿道炎
	D. 腫瘍性疾患	a 腎細胞癌 b 膀胱癌
	E. 結石症・尿路閉塞疾患	a 腎・尿路結石 b 水腎症
	F. 排尿機能障害	a 過活動膀胱 b 神経因性膀胱
	G. 男性生殖器疾患	a 前立腺肥大症 b 前立腺癌 c 前立腺炎 d 勃起障害（ED） e 男性不妊症
7. 女性疾患	A. 女性生殖器疾患	a 月経異常 b 子宮内膜症 c 子宮筋腫 d 子宮癌 ①子宮頸癌 ②子宮体癌 e 月経前症候群（PMS） f 更年期障害
	B. 産科疾患	a 妊娠高血圧症候群（妊娠中毒症）

大項目	中項目	小項目
		b 妊娠悪阻 c 胎位の異常 d 女性不妊症
8. 血液・造血器疾患	A. 赤血球疾患	a 鉄欠乏性貧血 b 巨赤芽球性貧血（悪性貧血） c 溶血性貧血 d 再生不良性貧血
	B. 白血球疾患	a 急性白血病 ①急性骨髓性白血病 ②急性リンパ性白血病 b 慢性白血病 ①慢性骨髓性白血病 ②慢性リンパ性白血病 c 成人T細胞白血病 d 多発性骨髓腫
	C. リンパ網内系疾患	a 悪性リンパ腫 ①ホジキンリンパ腫 ②非ホジキンリンパ腫
	D. 出血性素因	a 紫斑病 b 血友病 c 播種性血管内凝固症候群（DIC）
9. 代謝・栄養疾患	A. 糖代謝異常	a 糖尿病 ①1型糖尿病 ②2型糖尿病 ③糖尿病慢性合併症 ④糖尿病性昏睡 b 低血糖症
	B. 脂質代謝異常	a 脂質異常症 b 肥満症 ①原発性肥満（単純性肥満） ②二次性肥満（症候性肥満）
	C. 尿酸代謝異常	a 高尿酸血症 b 痛風
	D. 金属代謝異常	a ウィルソン病 b ヘモクロマトーシス c 亜鉛欠乏症
	E. 骨代謝異常	a くる病 b 骨軟化症 c 骨粗鬆症（椎体骨折を含む）
	F. その他	a ビタミン欠乏症（A、B ₁ 、B ₆ 、B ₁₂ 、C、D、E） b メタボリックシンドローム
10. 内分泌疾患	A. 下垂体疾患	a 下垂体腺腫 ①高プロラクチン血症 ②下垂体性成長ホルモン分泌亢進症 ③クッシング病 ④非機能性下垂体腺腫 b 下垂体前葉機能低下症（シーハン症候群を含む）

大項目	中項目	小項目
		c 成長ホルモン分泌不全性低身長症 d 尿崩症
	B. 甲状腺・副甲状腺疾患	a 甲状腺機能亢進症 b 甲状腺機能低下症（粘液水腫・クレチン症） c 橋本病（慢性甲状腺炎） d 甲状腺癌 e 副甲状腺機能亢進症 f 副甲状腺機能低下症
	C. 副腎疾患	a クッシング症候群 b アジソン病 c 原発性アルドステロン症 d 褐色細胞腫
	D. 脇内分泌疾患	a インスリノーマ b グルカゴノーマ c ガストリノーマ
11. アレルギー・自己免疫疾患	A. アレルギー性疾患	a アナフィラキシーショック b 薬物アレルギー c 食物アレルギー d アレルギー性結膜炎 e アレルギー性鼻炎、花粉症 f 篦麻疹 g アトピー性皮膚炎 h 気管支喘息
	B. 膠原病と類縁疾患	a 全身性エリテマトーデス（SLE） b 全身性硬化症（強皮症） c 関節リウマチ（RA） d ベーチェット病 e シエーグレン症候群 f 多発性筋炎、皮膚筋炎 g 線維筋痛症 h 慢性疲労症候群
	C. 免疫不全症	a 先天性免疫不全 b 後天性免疫不全 ① 後天性免疫不全症候群（AIDS） ② 医原性免疫不全症
12. 運動器疾患	A. 関節疾患	a 関節炎 b 肩関節周囲炎 c 変形性関節症 d 関節リウマチ e 結晶性関節炎（痛風、偽痛風）
	B. 骨壊死	a ペルテス病 b 離断性骨軟骨炎 c 特発性骨壊死
	C. 骨腫瘍	a 骨肉腫 b ユーイング肉腫 c 転移性骨腫瘍
	D. 筋・腱疾患	a 腱鞘炎 b 筋炎・筋膜炎

大項目	中項目	小項目
		c 腱板損傷 d 横紋筋肉腫
	E. 形態異常	a 発育性股関節形成不全 b 斜頸（骨性・筋性） c 側弯症、後弯症 d 外反母趾 e 内反足 f 四足、扁平足
	F. 脊椎疾患	a 椎間板ヘルニア b 後縦靱帯骨化症、黄色靱帯骨化症 c 脊椎分離すべり症 d 変性すべり症 e 変形性脊椎症 f 脊柱管狭窄症 g 腰痛症 h 頸椎捻挫、外傷性頸部症候群（むちうち損傷） i 脊髄症
	G. 脊髄損傷	a 脊髄損傷
	H. 骨系統疾患	a 骨形成不全症 b 軟骨無形成症（低身長）
	I. 外傷	a 骨折 ①脊椎圧迫骨折 ②大腿骨頸部骨折 ③橈骨遠位端骨折 ④上腕骨頸上骨折 b 脱臼、亜脱臼 c 肘内障 d 捻挫 e スポーツ外傷・障害
	J. その他	a 胸郭出口症候群（TOS） b 頸腕症候群 c ガングリオン
13. 皮膚・頭頸部・乳房疾患	A. 皮膚疾患	a 接触性皮膚炎 b アトピー性皮膚炎 c 热傷 d 凍傷 e 膿瘍 f 蜂巣炎（蜂窩織炎） g 円形脱毛症
	B. 眼疾患	a 結膜炎 b 角膜炎 c ぶどう膜炎 d ドライアイ e 白内障 f 緑内障 g 飛蚊症 h 加齢黄斑変性症 i 糖尿病性網膜症

大項目	中項目	小項目
		j 網膜剥離 k 眼精疲労
	C. 耳鼻咽喉疾患	a メニエール病 b 中耳炎 c アレルギー性鼻炎 d 突発性難聴 e 良性発作性頭位めまい症 f 前庭神経炎 g 耳管機能不全（耳管狭窄症、耳管開放症） h 扁桃周囲炎 i 声帯ポリープ j 咽頭癌 k 喉頭癌
	D. 乳腺・乳房疾患	a 乳腺炎 b 乳腺症 c 乳癌
14. 精神・心身医学的疾患	A. 統合失調・気分症	a 統合失調症 b 抑うつ症 c 双極症
	B. 不安症	a パニック症 b 全般不安症 c 社交不安症
	C. 摂食症	a 摂食症 ①神経性やせ症（拒食症） ②神経性過食症（大食症）
	D. 神経症と心身症	a 神経症 b 心身症
	E. 睡眠障害	a 不眠障害 ①不眠症 ②過眠症（ナルコレプシーを含む） ③レストレスレッグス症候群（むずむず脚症候群）
	F. その他	a せん妄 b アルコール依存症 c 自閉スペクトラム症（ASD） d 注意欠如多動症（ADHD） e 心的外傷後ストレス症（PTSD）
15. 小児疾患	A. 小児疾患	a 夜驚症 b 夜尿症 c 小児アレルギー性疾患 ①アトピー性皮膚炎 ②気管支喘息 ③アレルギー性鼻炎、結膜炎 d 脳性麻痺
16. 高齢者に多い疾患	A. 加齢に伴う疾患	a サルコペニア b ロコモティブシンドローム c フレイル

疾病の成り立ち、予防及び回復の促進

IV リハビリテーション医学

大項目	中項目	小項目
1. リハビリテーションの概要	A. リハビリテーションの理念	a リハビリテーションの定義 b バリアフリー c 地域共生社会
	B. リハビリテーション医学	a リハビリテーション医学の対象 b リハビリテーション医学の目的 c 障害者の動向
	C. 障害の概念	a ICF
	D. リハビリテーションの分野	a 医学的リハビリテーション b 教育的リハビリテーション c 職業的リハビリテーション d 社会的リハビリテーション
	E. 地域リハビリテーション	a 地域リハビリテーションの定義 b 地域包括ケア c 地域ケアを構成するサービス
2. 医学的リハビリテーションの概要	A. 各時期におけるリハビリテーション医療	a 急性期リハビリテーション b 回復期リハビリテーション c 生活期リハビリテーション
	B. リハビリテーション医療とチームアプローチ	a チームアプローチの必要性 b チームの構成メンバー
	C. リハビリテーション医療の進め方	a 評価とゴールの設定 b リハビリテーション治療と退院準備 c 社会参加
3. 障害の評価	A. 心身機能・身体構造の評価	a 関節可動域 b 筋力 c 運動麻痺と痙攣・固縮 d 協調運動障害 e 精神運動発達 f 認知症 g 失語症 h 高次脳機能障害 i 摂食嚥下障害
	B. 活動の評価	a 日常生活動作（ADL）の評価 b 基本的動作と歩行の評価
	C. 参加の評価	a 家族 b 住環境 c 地域社会と就労
	D. 合併症の評価	a 廃用症候群 b サルコペニア、ロコモティブシンドローム、フレイル
4. リハビリテーション治療	A. 理学療法	a 理学療法の定義 b 物理療法 c 運動療法（治療体操を含む）
	B. 作業療法	a 作業療法の定義 b 作業療法の種類

大項目	中項目	小項目
	C. 言語聴覚療法	c 日常生活動作 (ADL)、日常生活関連動作 (IADL) 訓練 a 言語聴覚療法の定義 b 失語症と構音障害に対する治療 c 摂食嚥下障害に対する治療
	D. 補装具、自助具・福祉用具	a 義肢 b 装具 c 歩行補助具 d 日常生活用具
	E. リハビリテーション看護	a リハビリテーション看護の意義 b リハビリテーション看護の方法 c 社会参加への援助
5. 運動学	A. 総論	a 関節の構造と運動 b 運動神経系 c 感覚神経系
	B. 姿勢と運動のコントロール	a 重心と重心線 b 異常姿勢 c 脊髄反射 d 姿勢反射
	C. 身体各部の機能	a 脊柱と体幹の機能 b 肩甲帯と肩関節の機能 c 肘関節と前腕の機能 d 手関節と手指の機能 e 骨盤と股関節の機能 f 膝関節の機能 g 足関節と足の機能
	D. 歩行	a 歩行周期 b 歩行分析 c 異常歩行
6. 脳血管障害・頭部外傷のリハビリテーション	A. 脳血管障害・頭部外傷による障害	a 脳血管障害・頭部外傷の分類 b 運動障害 c 感覚障害 d 言語障害 e 高次脳機能障害 f 摂食嚥下障害 g 痙攣
	B. 急性期リハビリテーション	a 理学療法 b 作業療法 c 言語聴覚療法 d リスク管理
	C. 回復期リハビリテーション	a 理学療法 b 作業療法 c 言語聴覚療法 d 在宅復帰に対する準備
	D. 生活期リハビリテーション	a 介護保険制度の活用 b 在宅でのリハビリテーション c 社会参加
7. 脊髄損傷のリハビリテーション	A. 脊髄損傷による障害	a 受傷原因 b 四肢麻痺と対麻痺

大項目	中項目	小項目
		c 感覚障害 d 呼吸機能障害 e 排尿・排便障害 f 損傷後に生じる合併症 g 損傷レベルと運動機能 h 損傷レベルと日常生活動作 (ADL)
	B. 急性期リハビリテーション	a 関節拘縮予防 b 褥瘡予防 c 呼吸理学療法 d 日常生活動作 (ADL) 訓練
	C. 回復期リハビリテーション	a 理学療法 b 作業療法 c 合併症管理 d 在宅復帰に対する準備 e 社会参加支援
8. 切断のリハビリテーション	A. 切断の評価	a 切断の原因 b 切断の分類と特徴 c 切断後の合併症
	B. 義肢作製とリハビリテーション	a 切断から義肢装着までの流れ b 義足作製とリハビリテーション c 義手作製とリハビリテーション
9. 小児のリハビリテーション	A. 脳性麻痺	a 定義 b 分類と症状 c 随伴症状 d 二次的障害 e リハビリテーションとケア f 整形外科的治療
	B. その他の小児疾患	a 進行性筋ジストロフィー b 二分脊椎
10. 内部障害のリハビリテーション	A. 呼吸器疾患	a 評価・リスク管理 b 運動療法 c 生活指導
	B. 腎・内分泌代謝疾患	a 評価・リスク管理 b 運動療法 c 生活指導
	C. 循環器疾患	a 評価・リスク管理 b 運動療法 c 生活指導
11. 運動器疾患のリハビリテーション	A. 肩関節疾患	a 評価 b リハビリテーション c 生活指導
	B. 腰痛症	a 評価 b リハビリテーション c 生活指導
	C. 変形性関節症	a 変形性膝関節症の特徴と評価 b 変形性股関節症の特徴と評価 c リハビリテーション d 生活指導

大項目	中項目	小項目
	D. 大腿骨近位部骨折	a 症状 b 評価 c リハビリテーション d 生活指導
	E. 関節リウマチ	a 症状 b 評価 c リハビリテーション d 生活指導
12. 神経・筋疾患のリハビリテーション	A. パーキンソン病	a 症状 b 評価 c リハビリテーション d 生活指導
	B. 末梢神経障害	a 症状 b 評価 c リハビリテーション d 生活指導
	C. その他の神経・筋疾患	a 症状 b 評価 c リハビリテーション d 生活指導

疾病の成り立ち、予防及び回復の促進

V 衛生学・公衆衛生学

大項目	中項目	小項目
1. 衛生・公衆衛生学の概念	A. 衛生・公衆衛生学の基本	a 衛生学及び公衆衛生学の定義 b 地域保健 c 学校保健 d 職域保健
2. 健康の保持増進と疾病予防	A. 健康の定義	a WHO の健康の定義
	B. 健康増進	a 健康管理 b 健康診断・健康診査 c 検診 d 健康教育 e ヘルスプロモーション f 健康日本21
	C. 疾病予防	a リスク要因 b 0次予防、1次予防、2次予防、3次予防 c 生活習慣の改善 d ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ
3. ライフスタイルと健康	A. 食と健康	a 健康と食生活 ①栄養と栄養素 ②食習慣 ③食生活指針 b 食事摂取基準 c 国民栄養の現状 d 食中毒
	B. 身体活動と健康	a 身体活動の概念 b 身体活動と健康
	C. その他の生活習慣と健康	a 喫煙と健康 b 飲酒と健康 c 睡眠と健康 d 口腔保健と全身の健康
4. 環境と健康	A. 日常生活環境	a 空気 ①性状 ②大気汚染 ③健康への影響 b 上水道 ①水質基準 ②浄水法と消毒 c 下水道 ①汚水処理法 ②水質汚濁 d 衣服と居住 ①住居と健康 ②衣服と健康 e 廃棄物処理 ①一般廃棄物 ②産業廃棄物

大項目	中項目	小項目
		③医療廃棄物（感染性廃棄物）
	B. 物理的環境	a 温熱 b 騒音 c 振動 d 放射線 ①非電離放射線 ②電離放射線
	C. 化学的環境	a 有害性評価 b 曝露評価 c 侵入経路 d 量-反応関係 e 毒性試験 f 化学発がん物質
	D. 生物的環境	a 病原微生物
	E. 環境と適応	a 環境と適応 ①主体環境系 ②生態系 ③生物濃縮 b 地球規模の環境問題 ①地球温暖化 ②砂漠化 ③オゾン層の破壊 ④酸性雨 c 公害 ①主なエピソードと原因 ②国境を越える公害 d 環境評価 e 環境基準 f 環境保全対策
5. 産業保健	A. 産業保健	a 産業衛生管理 ①作業環境管理 ②作業管理 ③健康管理 b 労働災害 c 健康診断 d 作業関連疾患（職業病） e 職場のメンタルヘルス
6. 精神保健	A. 精神保健	a 精神の健康障害対策と健康増進 ①適応障害 ②ストレス ③アルコール ④薬物依存 ⑤非行と犯罪 b 精神障害 ①精神保健福祉活動 ②社会復帰 ③偏見
7. 母子保健	A. 母子保健	a リプロダクティブヘルス b 母子保健水準の指標

大項目	中項目	小項目
		c 少子化 d 児童虐待 e 先天異常 f 健やか親子 21
8. 学校保健	A. 学校保健	a 学齢期の健康状態 b 保健教育 c 保健管理 d 学校において予防すべき感染症
9. 成人・高齢者保健	A. 成人・高齢者の保健	a 加齢と老化 b 生活習慣 c 生活の質 (QOL) d 日常生活動作 (ADL) e 認知症 f 在宅ケア g 地域包括ケアシステム h 高齢者虐待
	B. 生活習慣病対策	a 生活習慣病の現状と動向 b メタボリックシンドローム c 行政による対策
10. 感染症	A. 感染症と発生要因	a 感染源・感染経路・感受性宿主 b 免疫 c 易感染性宿主 d 無症候性キャリア e 日和見感染 f 医療関連感染 (院内感染) g 新興・再興感染症
	B. 感染症の予防と対策	a 感染源対策・感染経路対策・感受性宿主対策 b 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症法>による対策 ① 感染症の類型 ② 感染症発生動向調査 c 予防接種法による対策 d 検疫法による対策
11. 消毒法	A. 消毒法一般	a 消毒と滅菌の意義 b 消毒実施上の注意 c 医療廃棄物 (感染性廃棄物)
	B. 消毒の種類と方法	a 物理的方法 ① 物理的方法の種類 ② 実施法と注意 b 化学的方法 ① 消毒薬の種類 ② 消毒薬の作用 ③ 消毒薬の使用方法
	C. 消毒の応用	a 消毒の意義と対象 b 消毒物件と消毒法の選択 ① 施術者 ② 施術部位

大項目	中項目	小項目
		③施術器具 ④施術室 c 医療関連感染（院内感染）の予防 ①標準予防策（スタンダードプリコーション） ②感染経路別予防策
12. 疫学	A. 疫学の意義と方法	a 流行 b リスク ①有病割合（有病率） ②罹患率 ③相対危険 ④寄与危険 ⑤推定と信頼区間 c 疫学研究法 ①観察研究 ②介入研究
13. 保健統計	A. 保健統計一般	a 保健統計の種類と意義
	B. 主な保健統計	a 人口 ①人口静態統計 ②人口動態統計 b 生命表 ①平均寿命 ②健康寿命 c 健康づくり ①国民健康・栄養調査 ②国民生活基礎調査 d 疾患の統計 ①有病率 ②罹患率 ③致命率 ④受療率 ⑤有訴者率
14. 國際保健	A. 國際保健活動	a WHO の役割 b 保健医療分野の国際協力

保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念

I 関係法規

大項目	中項目	小項目
1. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律<あはき法>における免許	A. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師免許の資格要件	a 免許 b 業 c 積極的要件、消極的要件
	B. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師免許に関する事務など	a 免許の申請 b 免許証と変更 c 施術者の把握 d 免許の効力
	C. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の身分の消滅と復活	a 免許取消し b 再免許
2. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律<あはき法>における業務	A. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の業務の独占と業務の範囲	a 業務独占 b 業務範囲
	B. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の施術に関する注意	a 業務上の禁忌
	C. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の施術所などに関する規制	a 施術所の意義 b 施術所の届け出 c 施術所の備えるべき要件 d 施術所に対する都道府県知事の監督 e 業務開始の届け出など f 施術所の名称の制限 g 広告の制限 h 秘密保持義務（守秘義務） i 法人の代表等に関する罰則
	D. あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう業務の停止	
3. 罰則	A. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する罰則	a 施術者等に関する罰則
	B. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の施術所に関する罰則	a 施術所に関する罰則 b 両罰規定

保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念
指圧、はり及びきゅうの理念

あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師

関係法規

大項目	中項目	小項目
4. 関係法規	A. 医療関係法規	<p>a 医療法 b 医師法 c 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症法> d 健康増進法 e 地域保健法 f 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律<精神保健福祉法> g 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律<医薬品医療機器等法> h 麻薬及び向精神薬取締法 i 予防接種法</p>
	B. 社会福祉・社会保険関係法規	<p>a 老人福祉法 b 児童福祉法 c 障害者の日常及び社会生活を総合的に支援するための法律<障害者総合支援法> d 身体障害者福祉法 e 知的障害者福祉法 f 介護保険法 g 生活保護法 h 医療保険（国民健康保険、健康保険、高齢者の医療の確保に関する法律<高齢者医療確保法>）</p>
	C. その他の関係法規	<p>a 個人情報の保護に関する法律<個人情報保護法></p>

保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念

II 医療概論

大項目	中項目	小項目
1. 現代の医療と社会	A. 医療と社会	a 疾病構造 b 医療法と医療制度 c リハビリテーション
	B. 医療従事者	a 医療従事者の現状 b チーム医療と専門職連携
	C. 医療・福祉施設	a 病院 b 診療所 c 介護老人保健施設 d 介護老人福祉施設 e 保健・医療・福祉施設の連携
	D. 医療経済	a 国民医療費 b 医療負担と給付
2. 社会保障制度	A. 医療保険のしくみ	a 医療保険の種類と対象 b 療養費制度
	B. 公費負担医療	a 公費医療費の種類と対象
	C. 介護保険のしくみ	a 介護保険制度 b 介護サービスの概要
3. 医療倫理	A. 医療の倫理	a 医療の倫理の意義 b バイオエシックス c 医学研究に関する倫理指針 d 医学研究に関する利益相反
	B. 医療者と患者及び社会の倫理	a 患者の権利 b 生命の質 (QOL) c ノーマライゼーション d ターミナルケア e 脳死 f 臓器移植 g 尊厳死と安楽死 h 生命倫理に関する諸宣言 i 患者・市民参画
	C. 施術者としての倫理	a 職業倫理 b 秘密保持義務 (守秘義務) c 個人情報保護制度 d インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント e 患者の自己決定権 f パターナリズム (父権主義) g コンプライアンスとアドヒアランス

保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念

あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師

医療概論

出題基準

〈専門分野〉

あん摩マッサージ指圧師

基礎あん摩マッサージ指圧学

I 東洋医学概論・経絡経穴概論

大項目	中項目	小項目
1. 東洋医学の基礎	A. 東洋医学の意義	a 天人合一説 b 心身一如 c 未病を治す（治未病） d 養生の概要
	B. 陰陽論、五行論	a 陰陽の分類配当 b 五行 c 相生と相剋（相克） d 五行の色体表
2. 気血水（津液）の概要	A. 気	a 生成、生理作用、病理変化（気虚、気滞）
	B. 血	a 生成、生理作用、病理変化（血虚、血瘀）
	C. 水（津液）	a 生成、生理作用、病理変化（津液不足、水液停滞）
3. 藏象論	A. 肝の生理	a 疏泄を主る b 血を藏す c 怒・涙・筋・爪を主る d 目に開竅する e 第9胸椎に付着する
	B. 心の生理	a 血脈を主る b 神を藏す c 喜・汗を主る d 舌に開竅する e 第5胸椎に付着する
	C. 脾の生理	a 運化を主る b 昇清を主る c 統血を主る d 思・涎・肌肉・四肢を主る e 口に開竅する f 第11胸椎に付着する
	D. 肺の生理	a 気を主り、呼吸を調節する b 宣發（宣散）・肅降を主る c 水道を通調する d 治節を主る e 憂・涕・皮毛を主る f 鼻に開竅する g 第3胸椎に付着する
	E. 腎の生理	a 精を藏し、発育・生殖を主る b 水を主る c 納氣を主る d 恐・唾・髪・骨を主る e 髓を生じ、脳を充たす f 腰は腎の腑である g 耳・二陰に開竅する h 第2腰椎に付着する
	F. 胆の生理	a 胆汁の貯蔵・排泄を主る b 決断を主る

大項目	中項目	小項目
		c 奇恒の腑の一つである d 第10胸椎に付着する
	G. 小腸の生理	a 清濁の分別を主る b 第1仙椎に付着する
	H. 胃の生理	a 水穀の受納・腐熟を主る b 第12胸椎に付着する
	I. 大腸の生理	a 糞粕の伝化を主る b 第4腰椎に付着する
	J. 膀胱の生理	a 貯尿・排尿を主る b 第2仙椎に付着する
	K. 三焦の生理	a 諸氣を主宰し、全身の氣機を主る b 「名のみありて、形なし」とされている
4. 病因論	A. 三因論	a 外因：六淫（風・熱・湿・燥・寒・暑）、疫癪 b 内因：七情（怒・喜・思・憂・恐・悲・驚） c 不内外因：飲食の不摂生・労倦・安逸・房事の不摂生・外傷
	B. 三毒説	a 血毒・水毒・食毒
5. 病証論	A. 八綱病証	a 八綱病証の概要
	B. 気血水（津液）病証	a 気血水（津液）病証の概要
	C. 臓腑病証	a 臓腑病証の概要
	D. 経脈病証	a 経脈病証の概要
6. 四診	A. 望診	a 五色 b 身体各部の望診（体型、顔面） c 舌診（舌質、舌苔）
	B. 聞診	a 五声 b 五音 c 五香
	C. 問診	a 寒熱 b 汗 c 痛み d 耳目 e 睡眠 f 飲食と味覚 g 二便
	D. 切診	a 脈診 b 腹診 c 背診 d 切経（切穴を含む）
7. 証の立て方	A. 八綱による四診情報の分析と病証判断の進め方	a 四診情報と八綱 b 内傷病と外感病の鑑別
	B. 証の立て方	a 気血水（津液）病証 b 臓腑病証 c 経脈病証
8. 治療法	A. 東洋医学の治療法	a 按摩・鍼・灸・湯液（和漢薬）の概要

大項目	中項目	小項目
9. 日本伝統医学	A. 日本伝統医学の歴史と特徴	a 日本伝統医学の歴史 b 日本伝統医学と中医学の違い
10. 経絡の概要	A. 正経十二経脈	a 正経十二経脈の名称 b 正経十二経脈の接続 c 正経十二経脈の分布概要 d 正経十二経脈の走行方向 e 流注の概要
	B. 奇経八脈	a 奇経八脈の名称
	C. 十二経筋	a 分布概要
11. 経穴の意義と概要	A. 経穴の概要	a 膻穴 b 経穴
	B. 取穴法	a 骨度法 b 同身寸法
12. 所属経穴を持つ奇経	A. 督脈	a 主要な所属経穴の部位と解剖（腰陽関・命門・至陽・神道・身柱・大椎・百会・頸会・上星）
	B. 任脈	a 主要な所属経穴の部位と解剖（中極・関元・石門・気海・神闕・中脘・巨闕・膻中）
13. 正経十二経脈	A. 手の太陰肺経	a 主要な所属経穴の部位と解剖（中府・侠白・尺沢・孔最・列欠・太淵・少商）
	B. 手の陽明大腸経	a 主要な所属経穴の部位と解剖（商陽・合谷・陽溪・偏歷・温溜・手三里・曲池・臂臑・肩髃・巨骨・扶突・迎香）
	C. 足の陽明胃経	a 主要な所属経穴の部位と解剖（承泣・四白・地倉・大迎・頬車・下関・頭維・人迎・欠盆・乳根・不容・梁門・天枢・大巨・氣衝・伏兎・梁丘・犢鼻・足三里・上巨虚・下巨虚・豐隆・衝陽・内庭・厲兑）
	D. 足の太陰脾経	a 主要な所属経穴の部位と解剖（隱白・太白・公孫・三陰交・地機・陰陵泉・血海・腹結・大横・大包）
	E. 手の少陰心経	a 主要な所属経穴の部位と解剖（極泉・少海・通里・陰郄・神門・少衝）
	F. 手の太陽小腸経	a 主要な所属経穴の部位と解剖（少沢・腕骨・養老・支正・小海・肩貞・臑俞・天宗・秉風・肩外俞・肩中俞・顎髎・聴宮）
	G. 足の太陽膀胱経	a 主要な所属経穴の部位と解剖（晴明・攢竹・天柱・大杼・風門・肺俞・厥陰俞・心俞・膈俞・肝俞・胆俞・脾俞・胃俞・三焦俞・腎俞・大腸俞・小腸俞・膀胱俞・次髎・中髎・承扶・殷門・委中・膏肓・志室・胞肓・秩辺・承筋・承山・飛揚・金門・京骨・至陰）
	H. 足の少陰腎経	a 主要な所属経穴の部位と解剖（湧泉・太溪・大鍾・水泉・照海・築賓・陰谷・肓俞・俞府）

大項目	中項目	小項目
	I. 手の厥陰心包經 J. 手の少陽三焦經 K. 足の少陽胆經 L. 足の厥陰肝經	a 主要な所属經穴の部位と解剖（天池・天泉・曲沢・郄門・内関・大陵・勞宮・中衝） a 主要な所属經穴の部位と解剖（関衝・陽池・外関・会宗・三陽絡・消潔・臑会・肩髎・天髎・翳風・糸竹空） a 主要な所属經穴の部位と解剖（瞳子髎・聴会・曲鬢・完骨・陽白・風池・肩井・日月・京門・帶脈・環跳・風市・膝陽関・陽陵泉・外丘・光明・懸鍾・丘墟・足竅陰） a 主要な所属經穴の部位と解剖（大敦・行間・太衝・中封・蠡溝・中都・膝関・曲泉・章門・期門）
14. 経穴の応用	A. 要穴	a 原穴 b 郡穴 c 絡穴 d 愈穴（背部愈穴） e 募穴 f 四総穴
	B. 奇穴・新穴	a 太陽 b 腰痛点（腰腿点） c 落枕 d 内膝眼
15. 経絡・經穴の現代医学的研究	A. 経絡の研究 B. 経穴の研究 C. 反応点、反応帯	a 循経感伝現象 b 皮膚電気抵抗低下現象 a 良導点 b 皮電点 c 圧痛・硬結 d 皮膚温の変化 a 圧診点 b 摭診点 c トリガーポイント d ヘッド帶・マッケンジー帶 e 平田十二反応帶

基礎あん摩マッサージ指圧学

II あん摩マッサージ指圧理論

大項目	中項目	小項目
1. あん摩	A. 基本手技	a 種類 b 方法 c 生理的作用
	B. 古法按摩	a 概要 b 手技
2. マッサージ	A. 基本手技	a 種類 b 方法 c 生理的作用
	B. 運動法の概要	a 種類 b 方法 c 生理的作用
	C. 結合織マッサー ジ	a 概要 (治療目標、創始者) b 基本手技 (擦過軽擦法、カギ型軽擦法)
	D. リンパドレナージ	a 概要
3. 指圧	A. 基本手技	a 押圧操作 b 押圧の三原則 c 圧法の種類 d 運動操作
4. その他関連する 治療法	A. その他の手技療 法	a カイロプラクティック (原理、創始者) b オステオパシー (原理、創始者) c スポンディロセラピー (原理、創始者) d 関節モビリゼーション (原理) e 足の反射療法 (原理)
5. あん摩・マッサー ジ・指圧の臨床 応用	A. 刺激量	a 刺激量を決定する因子
	B. 感受性	a 個体の感受性を決定する要因
	C. あん摩・マッ サー・指圧の 適応と禁忌	a 適応症 b 絶対禁忌症、相対禁忌症
6. リスク管理	A. リスク管理の概 要と方法	a 施術上的一般的注意 b 有害事象 c 医療過誤とその予防 d 感染防止対策
7. あん摩・マッサー ジ・指圧治効の 基礎	A. 刺激の受容と伝 導	a 皮膚感覚の受容と伝導 b 深部感覚の受容と伝導
	B. 反射	a 体性 - 運動反射 b 自律神経反射 c 治療効果としての反射
	C. 施術の作用と生 体反応	a 手技療法の治療的作用 ①調整作用 (興奮作用、鎮静作用) ②誘導作用 ③循環改善作用 ④鎮痛作用 ⑤反射作用 ⑥転調作用

大項目	中項目	小項目
	D. 身体組織、器官への影響	<p>⑦矯正作用</p> <p>a 皮膚 b 骨格系 c 内臓系 d 循環系 e 神経系</p>
8. 関連学説	A. ホメオスタシス	<p>a 概要（恒常性、緊急反応、提唱者） b あん摩・マッサージ・指圧との関連</p>
	B. ストレス学説	<p>a 概要（ストレッサー、内分泌系との関連、提唱者） b あん摩・マッサージ・指圧との関連</p>
	C. 圧自律神経反射	<p>a 概要（圧刺激と反応、提唱者） b あん摩・マッサージ・指圧との関連</p>
	D. ゲートコントロール説	<p>a 概要（触刺激と侵害抑制調節、提唱者） b あん摩・マッサージ・指圧との関連</p>

臨床あん摩マッサージ指圧学

I 東洋医学臨床論

大項目	中項目	小項目
1. 診断の意義と治療計画	A. 臨床診断の意義と過程	a 現代医学的診断のプロセス b 東洋医学的診断のプロセス
	B. 治療計画	a 病態の鑑別と適否及び禁忌の判断 b リスクマネージメント c 治療効果の判定 d 生活指導
2. 診察法と記録法	A. 診察法	a 現代医学的診察法（基礎的手技の名称と概要） b 東洋医学的診察法（四診の名称と概要）
	B. 記録法	a 施術記録記載の意義・目的・作成責任 b POSとPOMR c SOAP形式
3. 治療の基礎	A. 治療効果の根拠（治療の意義）	a 自然治癒力の賦活 b 生体機能の調節
	B. 治療原則	a 現代医学理論に基づく治療原則 b 東洋医学理論に基づく治療原則
	C. 治療に併用する理学療法	a 運動療法 b 物理療法（電気療法、光線療法、温熱療法、水治療法、機械療法）
4. 症候に対するあん摩マッサージ指圧治療	A. 遭遇する頻度が高い症候	各症候は、①～⑥の項目を含む。 ①定義 ②病態生理 ③病態の鑑別と主要な原因疾患 ④適否の判断 ⑤主要な病証と治療方針 ⑥あん摩マッサージ指圧治療並びに生活指導 【全身の症候】 a 疲労と倦怠感 b 冷え・のぼせ 【感覚器の症候】 a 眼精疲労 b 耳鳴り・難聴 【呼吸・循環の症候】 a 咳と痰 b 血圧異常（高血圧・低血圧） 【消化器の症候】 a 食欲不振 b 便通異常（便秘・下痢） 【生殖器の症候】 a 月経異常 b 月経周期に伴う腹痛・腰痛 【心理・精神機能の症候】 a 不眠 【神経・運動器の症候】 a 頭痛

大項目	中項目	小項目
		b 顔面痛 c 肩こり d 肩関節痛 e 頸肩腕の痛みとしびれ f 上肢の痛みとしびれ（手の痛みとしびれを含む） g 体幹部の痛み（神経痛を含む） h 腰下肢の痛みとしびれ i 下肢の痛みとしびれ j 股関節痛 k 膝痛 l 運動麻痺（片麻痺を含む）
B. 遭遇することがある症候		各症候は、①～⑥の項目を含む。 ①定義 ②病態生理 ③病態の鑑別と主要な原因疾患 ④適否の判断 ⑤主要な病証と治療方針 ⑥あん摩マッサージ指圧治療並びに生活指導 【全身の症候】 a 肥満 b やせ（るい瘦） c 浮腫（むくみ） 【皮膚・外表の症候】 a 肌荒れ b 搓痒感（かゆみ） c 脱毛 d 発疹 e 皮膚の色調変化（蒼白・紅潮・黄疸・チアノーゼ） 【感覚器の症候】 a めまい 【消化器の症候】 a 胸やけ b 悪心・嘔吐 c 腹痛 【腎、泌尿器の症候】 a 排尿障害（頻尿、排尿痛、尿失禁） 【生殖器の症候】 a 不妊 b つわり c 骨盤位（逆子） d 勃起障害（ED） 【神経・運動器の症候】 a 顔面の麻痺 b 頸関節痛 c 手指のこわばり d 振戦・不随意運動 e 歩容異常・歩行障害

大項目	中項目	小項目
	C. 知っておく症候	<p>【心理・精神機能の症候】</p> <p>a うつ状態・焦燥感 b 認知機能の低下</p> <p>【その他の症候】</p> <p>a 歯痛 b 鼻閉・鼻汁 c 高血糖・低血糖 d 乳汁分泌不全</p> <p>各症候は、①～⑥の項目を含む。</p> <p>①定義 ②病態生理 ③病態の鑑別と主要な原因疾患 ④適否の判断 ⑤主要な病証と治療方針 ⑥生活指導</p> <p>【全身の症候】</p> <p>a 発熱 b 口渴</p> <p>【呼吸・循環の症候】</p> <p>a 動悸・息切れ b 呼吸困難 c 胸痛</p> <p>【消化器の症候】</p> <p>a 吐血・下血</p> <p>【血液、造血器の症候】</p> <p>a 貧血 b 出血傾向</p> <p>【腎、泌尿器の症候】</p> <p>a 尿量異常（無尿、乏尿、多尿） b 尿の色調変化・尿混濁</p> <p>【生殖器の症候】</p> <p>a 不正性器出血 b 帯下</p> <p>【神経・運動器の症候】</p> <p>a 意識障害</p>
5. スポーツ領域におけるあん摩マッサージ指圧治療	A. スポーツ障害・外傷の一般	<p>a スポーツ障害・外傷の定義と分類 b スポーツ障害・外傷に対する応急手当（RICE 処置を含む） c スポーツ障害・外傷の適否の判断 d アスリートのメンタルケア e スポーツ障害・外傷に対するあん摩マッサージ指圧治療の関わり方</p>
	B. スポーツ障害・外傷の発症予防	<p>a 筋疲労・筋肉痛・筋緊張に対する処置及び対応 b 筋肉の増強・トレーニング法 c ウォーミングアップと動的ストレッチ d クーリングダウンと静的ストレッチ e アスリートの適切な運動負荷と生活習慣</p>

大項目	中項目	小項目
	C. スポーツ障害に対するあん摩マッサージ指圧治療	<p>次のa～lの疾患は、①～⑤の項目を含む。</p> <p>①定義 ②発症機序 ③症状 ④病態の鑑別 ⑤あん摩マッサージ指圧治療（予防及び応急処置も含む）</p> <p>a 野球肩 b 野球肘 c テニス肘 d 筋筋膜性腰痛 e ジャンパー膝 f オスグッド病 g 腸脛靭帯炎 h 鶩足炎 i シンスプリント j コンパートメント症候群 k アキレス腱炎 l 足底筋膜炎</p>
	D. スポーツ外傷に対するあん摩マッサージ指圧治療	<p>次のa～eの疾患は、①～③の項目を含む。</p> <p>①定義 ②一般的な症状 ③回復過程におけるあん摩マッサージ指圧治療</p> <p>a 骨折（個別の骨折は除く） b 脱臼（個別の脱臼は除く） c 打撲 d 捻挫 e 肉ばなれ</p> <p>次のf～hの疾患は、①～⑤の項目を含む。</p> <p>①定義 ②発症機序 ③症状 ④病態の鑑別 ⑤回復過程におけるあん摩マッサージ指圧治療</p> <p>f 膝半月板損傷 g 膝靭帯損傷（前十字靭帯損傷、後十字靭帯損傷、膝側副靭帯損傷） h アキレス腱断裂</p>
	E. 女性アスリート特有の健康障害	<p>a 女性アスリートの三主徴の定義と分類 b 女性アスリートの三主徴に対する生活指導並びにあん摩マッサージ指圧治療</p>
6. 社会におけるあん摩マッサージ指圧治療の役割	A. 母子保健におけるあん摩マッサージ指圧治療の在り方	<p>a 妊娠・出産・育児期間における母子及びその家族の健康課題に対するあん摩マッサージ指圧治療</p> <p>b 主な小児疾患（瘡の虫・小児喘息・夜尿症）に対するあん摩マッサージ指圧治療</p>

大項目	中項目	小項目
	B. 学校保健におけるあん摩マッサージ指圧治療の在り方	a 児童生徒の健康課題に対するあん摩マッサージ指圧治療
	C. 産業保健におけるあん摩マッサージ指圧治療の在り方	a 事業所内施術者の業務と役割 b 職場におけるメンタルヘルス c プレゼンティーアイズムとアブセンティーアイズム d 職業起因性症状の病態把握・予防・あん摩マッサージ指圧治療
	D. 高齢者保健におけるあん摩マッサージ指圧治療の在り方	a 高齢者の特徴 b 高齢者の身体的、精神的な評価と指標 c サルコペニア・ロコモティブシンドローム・フレイル d 基本的な介護・予防 e 高齢者に対するあん摩マッサージ指圧治療
	E. 緩和ケアにおけるあん摩マッサージ指圧治療の在り方	a 緩和ケアにおけるあん摩マッサージ指圧治療
	F. 災害現場・被災地域等におけるあん摩マッサージ指圧師の役割	a 災害医療チームにおけるあん摩マッサージ指圧師の関わり方
7. 健康に対するあん摩マッサージ指圧治療の役割	A. 健康維持・増進におけるあん摩マッサージ指圧治療の在り方	a 健康維持・増進を目的とした生活指導(食事、運動、睡眠、休養、喫煙、飲酒) b 健康維持・増進を目的としたあん摩マッサージ指圧治療
8. 根拠に基づいたあん摩マッサージ指圧治療	A. あん摩マッサージ指圧の臨床研究	a 臨床研究の種類とエビデンスレベル
	B. あん摩マッサージ指圧の研究倫理	a ヘルシンキ宣言 b インフォームド・コンセント

あん摩マッサージ指圧師 経穴(180穴)・奇穴(4穴)一覧

東洋医学概論・経絡経穴概論

あん摩マッサージ指圧師 経穴 (180 穴)・奇穴 (4 穴) 一覧

(東洋医学概論・経絡経穴概論)

経脈名	経穴名	経脈名	経穴名	経脈名	経穴名	経脈名	経穴名
督脈	腰陽関 命門 至陽 神道 身柱 大椎 百会 頸会 上星		梁門 天枢 大巨 気衝 伏兔 梁丘 犢鼻 足三里 上巨虚		風門 肺俞 厥陰俞 心俞 膈俞 肝俞 胆俞 脾俞 胃俞 三焦俞		陽池 外関 会宗 三陽 消潔 臑会 肩髎 天髎 翳風 糸竹空
任脈	中極 関元 石門 気海 神闕 中脘 巨闕 膻中		下巨虚 豊隆 衝陽 内庭 厲兑		腎俞 大腸俞 小腸俞 膀胱俞	足の少陽胆經	瞳子髎 聴会 曲完骨 陽白池 肩井月 京門脈 環跳 風市 膝陽關 陽陵泉
手の太陰肺經	中府 侠白 尺沢 孔最 列欠 太淵 少商	足の太陰脾經	隱白 太白 公孫 三陰交 地機 陰陵泉 血海 腹結 大橫 大包		次髎 中髎 承扶 殷門 委中 膏肓 志室 胞肓 秩邊 承筋 承山 飛揚 金門 京骨 至陰		
手の陽明大腸經	商陽 合谷 陽溪 偏歷 溫溜 手三里	手の少陰心經	極泉 少海 通里 陰郄 神門 少衝	足の少陰腎經	湧泉 太渓 大鍾 水泉 照海 築賓 陰谷 肓俞 府	足の厥陰肝經	大敦 行間 太衝 中封 蠡溝 中都 膝關曲 泉章門 期門
	曲池 臂臑 肩髃 巨骨 扶突 迎香	手の太陽小腸經	少沢 腕骨 養老 支正 小海 肩貞 臑俞 天宗 秉風 肩外俞 肩中俞 顴髎 聽宮	手の厥陰心包經	天池 天泉 曲沢 郄門 内関 大陵 勞宮 中衝		
足の陽明胃經	承泣 四白 地倉 大迎 頬車 下関 頭維 人迎 欠盆 乳根 不容	足の太陽膀胱經	晴明 攢竹 天柱 大杼	手の少陽三焦經	關衝	奇穴	太陽 腰痛点 (腰腿点) 落枕 内膝眼

出題基準

〈専門分野〉

はり師、きゅう師

基礎はり学、基礎きゅう学

I 東洋医学概論

大項目	中項目	小項目
1. 東洋医学の基礎	A. 東洋医学の特色 B. 陰陽論 C. 五行論	a 天人合一思想 b 心身一如 c 未病を治す（治未病） d 養生の概要 a 陰陽の概念 b 陰陽の分類配当 c 陰陽の関係（互根、対立と協調、消長、転化、可分、制約） d 身体の陰陽区分（三陰三陽を含む） e 陰陽論の医学的応用 a 五行の概念 b 五行の分類 c 相生、相剋（相克） d 五行の色体表 e 五行論の医学的応用
2. 精、気、血、水（津液）と神の生理	A. 精 B. 気 C. 血 D. 水（津液） E. 神	a 精の概念 b 精とその作用 a 気の概念 b 気の作用 c 原氣（元氣）とその作用 d 宗氣とその作用 e 衛氣とその作用 f 営氣（榮氣）とその作用 a 血の概念 b 血とその作用 a 水（津液）の概念 b 水（津液）とその作用 a 神の概念 b 神とその作用
3. 藏象論	A. 脏腑の概要 B. 六腑 C. 六腑 D. 奇恒の腑	a 脏腑 b 脏腑間の関係 a 肝の生理作用 b 心の生理作用 c 脾の生理作用 d 肺の生理作用 e 腎の生理作用 f 心包の生理作用 a 胆の生理作用 b 小腸の生理作用 c 胃の生理作用 d 大腸の生理作用 e 膀胱の生理作用 f 三焦の生理作用 a 奇恒の腑の生理作用
4. 経絡論	A. 経絡論の概要	a 経脈・絡脈の概念

大項目	中項目	小項目
		b 正経十二経脈 c 奇経八脈 d 十二筋・皮部 e 経脈の走行・連接・分布 f 経脈の表裏関係 g 臓腑と経脈の関係
5. 病因論	A. 病因	a 外感の病因 ①六淫とその特徴 ②疫癟 b 内傷の病因 ①七情とその特徴 ②飲食の不摂生 ③労倦・安逸 c 他の病因（病理産物を含む） ①病理産物（瘀血・痰飲） ②内生五邪 ③外傷
	B. 三因論	a 名称と概念
	C. 三毒説	a 名称と概念
6. 病理・病証	A. 八綱病証	a 八綱の概要 b 表証とその特徴 c 裏証とその特徴 d 寒証とその特徴 e 热証とその特徴 f 虚証とその特徴 g 実証とその特徴 h 陰証とその特徴 i 陽証とその特徴 j 半表半裏証とその特徴 k 寒熱錯雜証とその特徴 l 虚実挾雜証とその特徴
	B. 気血水（津液）の病理・病証	a 気の病理・病証（気虚、気滞） b 血の病理・病証（血虚、血瘀） c 水（津液）の病理・病証（津液不足、水液停滞）
	C. 五臓六腑の病理・病証	a 肝の病証（肝氣鬱滯、肝火亢進、肝血虚、肝陰虚、肝陽亢進、肝風、肝胆湿熱） b 心の病証（心氣虚、心陽虚、心陰虚、心血虚、心火亢進、心脈阻滯） c 脾の病証（脾氣虚、脾陽虚、脾陰虚、脾胃湿熱、脾胃の昇降失調） d 肺の病証（肺氣虚、肺陰虚、肺の宣發、肅降の失調） e 腎の病証（腎精不足、腎氣虚、腎陽虚、腎陰虚） f 胆の病証 g 小腸の病証 h 胃の病証（胃寒、胃熱、食滯） i 大腸の病証

大項目	中項目	小項目
		j 膀胱の病証 k 三焦の病証 l 臓腑の複合病証
	D. 十二経脈の病証	a 手の太陰肺経の病証 b 手の陽明大腸経の病証 c 足の陽明胃経の病証 d 足の太陰脾経の病証 e 手の少陰心経の病証 f 手の太陽小腸経の病証 g 足の太陽膀胱経の病証 h 足の少陰腎経の病証 i 手の厥陰心包経の病証 j 手の少陽三焦経の病証 k 足の少陽胆経の病証 l 足の厥陰肝経の病証
	E. 奇経八脈病証	a 任脈病証 b 督脈病証 c 陰蹻脈病証 d 陽蹻脈病証 e 陰維脈病証 f 陽維脈病証 g 衝脈病証 h 带脈病証
	F. 六経病	a 太陽経病の特徴 b 陽明経病の特徴 c 少陽経病の特徴 d 太陰経病の特徴 e 少陰経病の特徴 f 厥陰経病の特徴
	G. 三陰三陽病（六病位）	a 太陽病の特徴 b 少陽病の特徴 c 陽明病の特徴 d 太陰病の特徴 e 少陰病の特徴 f 厥陰病の特徴
	H. 痔証	a 風瘻（行瘻）の特徴 b 寒瘻（痛瘻）の特徴 c 湿瘻（着瘻）の特徴 d 熱瘻の特徴
7. 四診	A. 四診情報	a 望診 b 聞診 c 問診 d 切診
8. 証の立て方	A. 外感病と内傷病の鑑別	a 病因による病証鑑別 b 外感病の病証の鑑別 c 内傷病の病証の鑑別
	B. 四診情報からの病証の進め方	a 八綱病証の立て方 b 気血水（津液）病証の立て方 c 臓腑病証の立て方

大項目	中項目	小項目
		d 経脈病証の立て方 e 六経病証（三陰三陽病）の立て方
9. 治療法	A. 鍼灸治療の原則	a 隨証理念 b 正治と反治 c 本治と標治（急則治標、緩則治本、標本同治） d 天・地・人に応じる e 補瀉（補虛瀉實、扶正去邪） f 先表後裏、先急後緩 g 弁証論治
	B. 鍼灸治療の法則	a 表・裏・寒・熱・虛・實に対する法則 b 『難経』六十九難の法則 c 局所選穴 d 遠隔選穴 e 循経選穴 f 隨証選穴 g 特定穴の選穴
	C. 鍼灸の補瀉	a 鍼の補瀉 b 灸の補瀉
	D. 古代刺法の概要	a 五刺 b 九刺 c 十二刺
	E. 湯液（和漢薬）の特徴	a 生薬の概要 b 方剤を構成する生薬の役割（君・臣・佐・使） c 生薬の気味（五性と五味） d 治病機転（八法、瞑眩）
	F. 導引・按摩	a 導引の概要 b 按摩の概要
10. 日本伝統医学	A. 日本伝統医学の歴史と特徴	a 日本伝統医学の歴史 b 日本伝統医学と中医学の違い

基礎はり学、基礎きゅう学

II 経絡経穴概論

大項目	中項目	小項目
1. 経絡の意義	A. 正経十二経脈	a 正経十二経脈の名称 b 正経十二経脈の接続 c 正経十二経脈の分布概要 d 正経十二経脈の走行方向 e 流注の概要
	B. 奇経八脈	a 奇経八脈の名称 b 奇経八脈の陰経・陽経分類 c 奇経八脈の概要
	C. 十二筋	a 十二筋の概要
	D. 絡脈・皮部	a 絡脈・皮部の概要
2. 経穴の意義と概要	A. 経穴の概要	a 腎穴 b 経穴 c 経穴数
	B. 取穴法	a 骨度法 b 同身寸法
3. 所属経穴を持つ奇経	A. 督脈	a 所属経穴 b 部位と取り方 c 解剖
	B. 任脈	a 所属経穴 b 部位と取り方 c 解剖
4. 正経十二経脈	A. 手の太陰肺経	a 所属経穴 b 部位と取り方 c 解剖
	B. 手の陽明大腸経	a 所属経穴 b 部位と取り方 c 解剖
	C. 足の陽明胃経	a 所属経穴 b 部位と取り方 c 解剖
	D. 足の太陰脾経	a 所属経穴 b 部位と取り方 c 解剖
	E. 手の少陰心経	a 所属経穴 b 部位と取り方 c 解剖
	F. 手の太陽小腸経	a 所属経穴 b 部位と取り方 c 解剖
	G. 足の太陽膀胱経	a 所属経穴 b 部位と取り方 c 解剖
	H. 足の少陰腎経	a 所属経穴 b 部位と取り方 c 解剖

大項目	中項目	小項目
	I. 手の厥陰心包經 J. 手の少陽三焦經 K. 足の少陽胆經 L. 足の厥陰肝經	a 所属經穴 b 部位と取り方 c 解剖
		a 所属經穴 b 部位と取り方 c 解剖
		a 所属經穴 b 部位と取り方 c 解剖
		a 所属經穴 b 部位と取り方 c 解剖
5. 経穴の応用	A. 要穴	a 五俞穴（五行穴） b 原穴 c 郡穴 d 絡穴 e 愈穴（背部愈穴） f 募穴 g 八会穴 h 四総穴 i 八脈交会穴（八総穴・八宗穴） j 交会穴 k 下合穴
	B. 組合せ穴	a 六つ灸（六華の灸・胃の六つ灸） b 中風七穴 c 小児斜差の灸 d 脚気八処の穴
	C. 奇穴・新穴	a 経穴名 b 部位（位置） c 取穴法 d 主治
6. 経絡・経穴の現代医学的研究	A. 経絡の研究	a 循経感伝現象 b 皮膚電気抵抗低下現象
	B. 経穴の研究	a 良導点 b 皮電点 c 压痛・硬結 d 皮膚温の変化
	C. 反応点、反応帯	a 压診点 b 摂診点 c トリガーポイント d ヘッド帯・マッケンジー帯 e 平田十二反応帯
	D. 経穴への刺鍼・施灸と有害事象	a 刺鍼を避けるべき経穴 b 施灸を避けるべき経穴 c 経穴への刺鍼と臓器損傷 d 経穴への刺鍼と神経損傷 e 経穴への刺鍼と血管損傷

基礎はり学、基礎きゅう学

III はり理論

大項目	中項目	小項目
1. 鍼の基礎知識	A. 毫鍼	a 各部の名称 b 鍼の規格 c 鍼尖形状と特徴 d 刺鍼の方式 e 鍼の材質と特徴
	B. 古代九鍼	a 種類 b 使用目的と方法
2. 基本的な刺鍼方法	A. 刺鍼の基本操作 (刺鍼の術式)	a 前揉捏と後揉捏 b 刺手と押手 c 切皮 d 刺入法 (旋撲刺法、送り込み刺法、圧鍼刺法) e 抜鍼 (抜去法)
	B. 基本17手技	a 目的 b 方法 c 適応
3. 特殊鍼法	A. 小兒鍼	a 目的 b 方法 c 適応
	B. 皮内鍼、円皮鍼	a 目的 b 方法 c 適応
	C. 灸頭鍼	a 目的 b 方法 c 適応
	D. 鍼通電療法	a 目的 b 方法 c 適応
	E. 耳鍼療法	a 目的 b 方法 c 適応
	F. 頭鍼療法	a 目的 b 方法 c 適応
	G. 刺絡療法	a 目的 b 方法 c 適応
4. 鍼の臨床応用	A. 刺激量	a 刺激を決定する要因
	B. 生体の感受性	a 感受性を決定する要因
	C. 鍼療法の適応と禁忌	a 適否の判断基準の考え方
5. リスク管理	A. 施術上の一般的注意	a 生体の感受性と刺激量 b 刺激部位と有害事象 c 患者への説明と配慮

大項目	中項目	小項目
	B. 鍼療法の医療過誤と副作用	a 気胸の発生原因、症状、対処法 b 折鍼の発生原因、症状、対処法 c 皮膚反応の発生原因、現象、対処法 d 出血、内出血の発生原因、現象、対処法 e 抜鍼困難の発生原因、現象、対処法 f 脳貧血の発生原因、現象、対処法 g 違感覚の発生原因、対処法
	C. 感染防止対策	a 滅菌と消毒 b 手指の消毒 c 施術部位の消毒 d 血液感染防止策 e 免疫能低下による易感染症対策（滅菌手技） f 飛沫感染防止策 g 感染性廃棄物
6. 鍼治効の基礎	A. 末梢における鍼刺激の受容と伝導	a 痛み感覚の受容と伝導 b 触圧感覚の受容と伝導 c 筋、腱の伸張刺激及び筋の振動の受容と伝導 d 関連痛 e 鍼刺激の受容と伝導
	B. 感覚の中枢内伝導路	a 痛覚伝導路 b 温度覚の伝導路 c 触覚の伝導路
	C. 鍼刺激と反射	a 軸索反射 b 体性-運動反射 c 体性-自律神経反射
	D. 鍼鎮痛	a 鍼鎮痛の利点と欠点 b 鍼鎮痛の発現機構 c 下行性抑制系 d ゲートコントロール説 e 広汎性侵害抑制調節（広範囲侵害抑制性調節）
	E. 血流改善	a 血流に対する作用
7. 鍼療法の治効理論	A. 治療的作用	a 調整作用（興奮作用、鎮静作用） b 誘導作用 c 鎮痛作用 d 防御作用 e 免疫作用 f 消炎作用 g 転調作用 h 循環改善作用 i 経穴の作用
8. 関連学説	A. サイバネティックス	a フィードバック機構 b 鍼施術との関連
	B. ホメオスタシス	a 内部環境と恒常性 b 緊急反応（交感神経-副腎髄質系） c 鍼施術との関連

大項目	中項目	小項目
	C. ストレス学説	a 概要 b 3つの様相反応 c 3つの時期 d 鍼施術との関連
	D. 压自律神経反射	a 概要 b 鍼施術との関連

基礎はり学、基礎きゅう学

IV きゅう理論

大項目	中項目	小項目
1. 炎の基礎知識	A. 炎の材料	a 施灸に用いる用具と保存法 b ヨモギの特徴 c 艾の種類 d 艾の品質と特徴と用途
2. 炎術の種類	A. 有痕灸	a 有痕灸の種類と特徴 b 施灸方法 c 艾の燃焼温度と条件
	B. 無痕灸	a 知熱灸 b 温灸 c 隔物灸 d 艾を使わない灸
3. 炎の臨床応用	A. 刺激量	a 炎の刺激量を決定する要因
	B. 感受性	a 個体の感受性を決定する要因
	C. 炎療法の適応と禁忌	a 適否の判断基準の考え方
4. リスク管理	A. 施術上的一般的注意	a 生体の感受性と刺激量 b 刺激部位と有害事象 c 患者への説明と配慮
	B. 炎療法の医療過誤と副作用	a 施灸による熱傷 b 炎痕の化膿の原因、予防、対処法 c 炎あたりの原因、予防、対処法
	C. 感染防止対策	a 減菌と消毒 b 手指の消毒 c 施術部位の消毒 d 血液感染防止策 e 免疫機能低下による易感染症対策（減菌手技） f 飛沫感染防止策 g 感染性廃棄物
5. 炎治効の基礎	A. 末梢における炎刺激の受容と伝導	a 痛み感覚の受容と伝導 b 関連痛 c 炎刺激の受容と伝導（TRP チャネルを含む）
	B. 感覚の中枢内伝導路	a 痛覚伝導路 b 温度覚の伝導路
	C. 炎刺激と反射	a 軸索反射 b 体性-運動反射 c 体性-自律神経反射
	D. 血流改善	a 炎による末梢血流に対する作用
	E. その他	a 内因性オピオイド b 局所炎症反応 c 下行性抑制系 d 広汎性侵害抑制調節（広範囲侵害抑制性調節）

大項目	中項目	小項目
6. 灸療法の治効理論	A. 治療的作用	a 調整作用（興奮作用、鎮静作用） b 誘導作用 c 鎮痛作用 d 防御作用 e 免疫作用 f 消炎作用 g 転調作用 h 循環改善作用 i 経穴の作用
7. 関連学説	A. サイバネティックス	a フィードバック機構 b 灸施術との関連
	B. ホメオスタシス	a 内部環境と恒常性 b 緊急反応（交感神経-副腎髄質系） c 灸施術との関連
	C. ストレス学説	a 概要 b 3つの様相反応 c 3つの時期 d 灸施術との関連
	D. 圧自律神経反射	a 概要 b 灸施術との関連

臨床はり学、臨床きゅう学

I 東洋医学臨床論

大項目	中項目	小項目
1. 診断の意義と治療計画	A. 臨床診断の意義と過程	a 現代医学的診断のプロセス b 東洋医学的診断のプロセス
	B. 治療計画	a 病態の鑑別と適否及び禁忌の判断 b リスクマネージメント c 治療効果の判定 d 生活指導
2. 診察法と記録法	A. 診察法	a 現代医学的診察法（基礎的手技の名称と概要） b 東洋医学的診察法（四診の名称と概要）
	B. 記録法	a 施術記録記載の意義・目的・作成責任 b POSとPOMR c SOAP形式
3. 治療の基礎	A. 治療効果の根拠（治療の意義）	a 自然治癒力の賦活 b 生体機能の調節
	B. 治療原則	a 現代医学理論に基づく治療原則 b 東洋医学理論に基づく治療原則
	C. 治療に併用する理学療法	a 運動療法 b 物理療法（電気療法、光線療法、温熱療法、水治療法、機械療法）
4. 症候に対する鍼灸治療	A. 遭遇する頻度が高い症候	各症候は、①～⑥の項目を含む。 ①定義 ②病態生理 ③病態の鑑別と主要な原因疾患 ④適否の判断 ⑤主要な病証と治療方針 ⑥鍼灸治療並びに生活指導 【全身の症候】 a 疲労と倦怠感 b 冷え・のぼせ 【感覚器の症候】 a 眼精疲労 b 耳鳴り・難聴 【呼吸・循環の症候】 a 咳と痰 b 血圧異常（高血圧・低血圧） 【消化器の症候】 a 食欲不振 b 便通異常（便秘・下痢） 【生殖器の症候】 a 月経異常 b 月経周期に伴う腹痛・腰痛 【心理・精神機能の症候】 a 不眠 【神経・運動器の症候】 a 頭痛 b 顔面痛

大項目	中項目	小項目
	<p>B. 遭遇することがある症候</p>	<p>c 肩こり d 肩関節痛 e 頸肩腕の痛みとしびれ f 上肢の痛みとしびれ（手の痛みとしびれを含む） g 体幹部の痛み（神経痛を含む） h 腰下肢の痛みとしびれ i 下肢の痛みとしびれ j 股関節痛 k 膝痛 l 運動麻痺（片麻痺を含む）</p> <p>各症候は、①～⑥の項目を含む。</p> <p>①定義 ②病態生理 ③病態の鑑別と主要な原因疾患 ④適否の判断 ⑤主要な病証と治療方針 ⑥鍼灸治療並びに生活指導</p> <p>【全身の症候】</p> <p>a 肥満 b やせ（るい瘦） c 浮腫（むくみ）</p> <p>【皮膚・外表の症候】</p> <p>a 肌荒れ b 搓痒感（かゆみ） c 脱毛 d 発疹 e 皮膚の色調変化（蒼白・紅潮・黄疸・チアノーゼ）</p> <p>【感覚器の症候】</p> <p>a めまい</p> <p>【消化器の症候】</p> <p>a 胸やけ b 悪心・嘔吐 c 腹痛</p> <p>【腎、泌尿器の症候】</p> <p>a 排尿障害（頻尿、排尿痛、尿失禁）</p> <p>【生殖器の症候】</p> <p>a 不妊 b つわり c 骨盤位（逆子） d 勃起障害（ED）</p> <p>【神経・運動器の症候】</p> <p>a 顔面の麻痺 b 頸関節痛 c 手指のこわばり d 振戦・不随意運動 e 歩容異常・歩行障害</p>

大項目	中項目	小項目
	C. 知っておく症候	<p>【心理・精神機能の症候】</p> <p>a うつ状態・焦燥感 b 認知機能の低下</p> <p>【その他の症候】</p> <p>a 歯痛 b 鼻閉・鼻汁 c 高血糖・低血糖 d 乳汁分泌不全</p> <p>各症候は、①～⑥の項目を含む。</p> <p>①定義 ②病態生理 ③病態の鑑別と主要な原因疾患 ④適否の判断 ⑤主要な病証と治療方針 ⑥生活指導</p> <p>【全身の症候】</p> <p>a 発熱 b 口渴</p> <p>【呼吸・循環の症候】</p> <p>a 動悸・息切れ b 呼吸困難 c 胸痛</p> <p>【消化器の症候】</p> <p>a 吐血・下血</p> <p>【血液、造血器の症候】</p> <p>a 貧血 b 出血傾向</p> <p>【腎、泌尿器の症候】</p> <p>a 尿量異常（無尿、乏尿、多尿） b 尿の色調変化・尿混濁</p> <p>【生殖器の症候】</p> <p>a 不正性器出血 b 帯下</p> <p>【神経・運動器の症候】</p> <p>a 意識障害</p>
5. スポーツ領域における鍼灸治療	<p>A. スポーツ障害・外傷の一般</p> <p>B. スポーツ障害・外傷の発症予防</p>	<p>a スポーツ障害・外傷の定義と分類 b スポーツ障害・外傷に対する応急手当（RICE 処置を含む） c スポーツ障害・外傷の適否の判断 d アスリートのメンタルケア e スポーツ障害・外傷に対する鍼灸治療の関わり方</p> <p>a 筋疲労・筋肉痛・筋緊張に対する処置及び対応 b 筋肉の増強・トレーニング法 c ウォーミングアップと動的ストレッチ d クーリングダウンと静的ストレッチ e アスリートの適切な運動負荷と生活習慣</p>

大項目	中項目	小項目
	C. スポーツ障害に対する鍼灸治療	<p>次のa～lの疾患は、①～⑤の項目を含む。</p> <p>①定義 ②発症機序 ③症状 ④病態の鑑別 ⑤鍼灸治療（予防及び応急処置も含む）</p> <p>a 野球肩 b 野球肘 c テニス肘 d 筋筋膜性腰痛 e ジャンパー膝 f オスグッド病 g 腸脛靭帯炎 h 鶴足炎 i シンスプリント j コンパートメント症候群 k アキレス腱炎 l 足底筋膜炎</p>
	D. スポーツ外傷に対する鍼灸治療	<p>次のa～eの疾患は、①～③の項目を含む。</p> <p>①定義 ②一般的な症状 ③回復過程における鍼灸治療</p> <p>a 骨折（個別の骨折は除く） b 脱臼（個別の脱臼は除く） c 打撲 d 捻挫 e 肉ばなれ</p> <p>次のf～hの疾患は、①～⑤の項目を含む。</p> <p>①定義 ②発症機序 ③症状 ④病態の鑑別 ⑤回復過程における鍼灸治療</p> <p>f 膝半月板損傷 g 膝靭帯損傷（前十字靭帯損傷、後十字靭帯損傷、膝側副靭帯損傷） h アキレス腱断裂</p>
	E. 女性アスリート特有の健康障害	<p>a 女性アスリートの三主徴の定義と分類 b 女性アスリートの三主徴に対する生活指導並びに鍼灸治療</p>
6. 社会における鍼灸治療の役割	A. 母子保健における鍼灸治療の在り方	<p>a 妊娠・出産・育児期間における母子及びその家族の健康課題に対する鍼灸治療 b 主な小児疾患（疳の虫・小児喘息・夜尿症）に対する鍼灸治療</p>
	B. 学校保健における鍼灸治療の在り方	<p>a 児童生徒の健康課題に対する鍼灸治療</p>

大項目	中項目	小項目
	C. 産業保健における鍼灸治療の在り方	a 事業所内施術者の業務と役割 b 職場におけるメンタルヘルス c プレゼンティーアイズムとアブセンティーアイズム d 職業起因性症状の病態把握・予防・鍼灸治療
	D. 高齢者保健における鍼灸治療の在り方	a 高齢者の特徴 b 高齢者の身体的、精神的な評価と指標 c サルコペニア・ロコモティブシンドローム・フレイル d 基本的な介護・予防 e 高齢者に対する鍼灸治療
	E. 緩和ケアにおける鍼灸治療の在り方	a 緩和ケアにおける鍼灸治療
	F. 災害現場・被災地域等における鍼灸師の役割	a 災害医療チームにおける鍼灸師の関わり方
7. 健康に対する鍼灸治療	A. 健康維持・増進における鍼灸治療の在り方	a 健康維持・増進を目的とした生活指導（食事、運動、睡眠、休養、喫煙、飲酒） b 健康維持・増進を目的とした鍼灸治療
8. 根拠に基づいた鍼灸治療	A. 鍼灸の臨床研究	a 臨床研究の種類とエビデンスレベル
	B. 鍼灸の研究倫理	a ヘルシンキ宣言 b インフォームド・コンセント

欧文略語集

あん摩マッサージ指圧師
はり師、きゅう師

欧文略語集

略語	日本語訳	原語
ACLS	二次救命処置（二次心肺蘇生法）	advanced cardiovascular life support
ACTH	副腎皮質刺激ホルモン	adrenocorticotrophic hormone
ADH	抗利尿ホルモン	antidiuretic hormone
ADHD	注意欠如多動症	attention deficit hyperactivity disorder
ADL	日常生活動作	activities of daily living
AED	自動体外式除細動器	automated external defibrillator
AFP	α フエトプロテイン	α -fetoprotein
AGA	男性型脱毛症	androgenetic alopecia
AGML	急性胃粘膜病変	acute gastric mucosal lesion
AIDS	後天性免疫不全症候群	acquired immunodeficiency syndrome
ALD	アルコール性肝疾患	alcoholic liver disease
ALP	アルカリホスファターゼ	alkaline phosphatase
ALS	筋委縮性側索硬化症	amyotrophic lateral sclerosis
ALT	アラニン アミノトランスフェラーゼ	alanine aminotransferase
ARDS	急性呼吸促迫症候群	acute respiratory distress syndrome
ASD	自閉スペクトラム症	autism spectrum disorder
ASO	抗ストレプトリジン O 抗体	antistreptolysin O
AST	アスパラギン酸 アミノトランスフェラーゼ	aspartate aminotransferase
ATP	アデノシン三リン酸	adenosine triphosphate
BLS	一次救命処置	basic life support
BMI	体格指数	body mass index
BUN	血清尿素窒素	blood urea nitrogen
CA125	がん抗原 125	cancer antigen 125
CA15-3	糖鎖抗原 15-3	carbohydrate antigen 15-3
CA19-9	シアリル Lea 抗原（糖鎖抗原）	carbohydrate antigen 19-9
CEA	癌胎児性抗原	carcinoembryonic antigen
CGRP	カルシトニン遺伝子関連ペプチド	calcitonin gene-related peptide
CK	クレアチンキナーゼ	creatine kinase
CKD	慢性腎臓病	chronic kidney disease
CMI	コーネルメディカルインデックス (CMI 健康調査表)	Cornell medical index
COPD	慢性閉塞性肺疾患	chronic obstructive pulmonary disease
COVID-19	新型コロナウイルス 感染症	coronavirus disease 2019
CRP	C反応性タンパク	C-reactive protein

略語	日本語訳	原語
CT	コンピューター断層撮影	computed tomography
DIC (S)	播種性血管内凝固（症候群）	disseminated intravascular coagulation (syndrome)
DVT	深部静脈血栓症	deep vein thrombosis
ED	勃起障害	erectile dysfunction
EOG	エチレンオキサイドガス	ethylene oxide gas
FD	機能性ディスペプシア	functional dyspepsia
FIM	機能的自立度評価法	functional independence measure
FT3	遊離トリヨードサイロニン	free triiodothyronine
FT4	遊離サイロキシン	free thyroxine
GERD	胃食道逆流症	gastroesophageal reflux disease
GFR	糸球体ろ過量	glomerular filtration rate
GVH	移植片対宿主	graft-versus-host
HAV	A型肝炎ウイルス	hepatitis A virus
HBV	B型肝炎ウイルス	hepatitis B virus
HbA1c	ヘモグロビンエーワンシー	hemoglobin A1c
HCV	C型肝炎ウイルス	hepatitis C virus
HDL	高密度（比重）リポタンパク質	high density lipoprotein
HEV	E型肝炎ウイルス	hepatitis E virus
HIV	ヒト免疫不全ウイルス	human immunodeficiency virus
HPV	ヒトパピローマウイルス	human papilloma virus
HTLV-1	ヒトT細胞白血病ウイルス1型	human T-cell leukemia virus type 1
HVG	宿主対移植片	host-versus-graft
IADL	日常生活関連動作	instrumental activities of daily living
IBS	過敏性腸症候群	irritable bowel syndrome
ICF	国際生活機能分類	International Classification of Functioning, Disability and Health
IgA	免疫グロブリンA	immunoglobulin A
ILO	国際労働機関	International Labour Organization
JICA	国際協力機構	Japan International Cooperation Agency
LD (LDH)	乳酸脱水素酵素	lactate dehydrogenase
LDL	低密度（比重）リポタンパク質	low density lipoprotein
MCTD	混合性結合組織病	mixed connective tissue disease
MMSE	ミニメンタルステート検査	mini-mental state examination
MRI	磁気共鳴画像	magnetic resonance imaging
MRSA	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	methicillin-resistant staphylococcus aureus
MCI	軽度認知障害	mild cognitive impairment
NIH	米国国立衛生研究所	National Institutes of Health
NO	一酸化窒素	nitric oxide
NRS	数値評価スケール	numerical rating scale

略語	日本語訳	原語
PET	ポジトロン断層撮影 (陽電子放射断層撮影)	positron emission tomography
PMS	月経前症候群	premenstrual syndrome
POS	問題志向型システム	problem-oriented system
POMR	問題志向型診療録	problem-oriented medical record
PRL	プロラクチン	prolactin
PSA	前立腺特異抗原	prostate specific antigen
PTH	副甲状腺ホルモン	parathyroid hormone
PTSD	心的外傷後ストレス症	post-traumatic stress disorder
QOL	生活の質	quality of life
RBD	レム睡眠行動異常症	REM sleep behavior disorder
RDQ	ローランド・モリス質問票 (腰痛特異的 QOL 尺度)	Roland-Morris disability questionnaire
RA	関節リウマチ	rheumatoid arthritis
RF	リウマチ因子	rheumatoid factor
RICE	ライス	rest, icing, compression, elevation
RLS	レストレスレッグス症候群	restless legs syndrome
ROM	関節可動域	range of motion
SARS	重症急性呼吸器症候群	severe acute respiratory syndrome
SCC	扁平上皮癌 (関連抗原)	squamous cell carcinoma (related antigen)
SOAP	主觀的情報、客觀的情報、評価、 計画	subjective, objective, assessment, plan
SLE	全身性エリテマトーデス	systemic lupus erythematosus
TENS	経皮的末梢神経電気刺激	transcutaneous electrical nerve stimulation
TIA	一過性脳虚血発作	transient ischemic attack
TOS	胸郭出口症候群	thoracic outlet syndrome
TSH	甲状腺刺激ホルモン	thyroid stimulating hormone
UNICEF	国際連合児童基金	United Nations Children's Fund
VAS	視覚的評価スケール	visual analogue scale
VIP	血管作動性腸ペプチド	vasoactive intestinal peptide
WHO	世界保健機関	World Health Organization
γ -GT	ガンマグルタミル トランスフェラーゼ	γ -glutamyltransferase